

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 『ターゲットと指標』 授業での活用事例

高等学校編（2022年-2023年）

総合

- P4 . . . 京都府立鴨沂高等学校 対象：2年生
『現代社会の課題とその解決法』について考える
- P6 . . . 東京都立総合芸術高等学校 対象：2年生
SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう
- P7 . . . 和洋九段女子高等学校 対象：3年生
「問い」を深める
- P9 . . . 北海道標津高等学校 対象：1年生
野付巡検とSDGs
- P11 . . . 清真学園高等学校 対象：2年生
SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味
- P15 . . . 沖縄県立久米島高等学校 対象：2年生
久米島町で幸せに暮らしていくために必要なこと
- P17 . . . 福岡市立福岡西陵学校 対象：2年生
SDGsと社会課題を学ぶ

国語

- P19 . . . 英心高等学校 対象：2年生
進路×新聞×SDGs

家庭総合

- P20 . . . 東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来の家はどんな家
- P23 . . . 東京都立国際高等学校 対象：2年生
What's SDGs?
- P27 . . . 東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来のつくり方
- P30 . . . 東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来社会の設計者

家庭基礎

- P32 . . . 宮城県泉館山高等学校 対象：1年生
SDGsと私たちの生活

現代文明論

- P34 . . . 東海大学山形高等学校 対象：1年生
SDG's目標14「海の資源を守ろう」現在の環境を具体的に考える

総合探究

- P36 . . . 工学院大学附属高等学校 対象：1年生
1学期探究プロジェクト 八王子動画プロジェクト

探究

- P37 . . . 日本文理大学附属高校 対象：1年生
総合探求

探究基礎・探究

- P39 . . . 秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 対象：1・2年生
高1「探究基礎」、高2「探究」

課題研究

- P40 . . . 大阪府立桜塚高等学校 対象：2年生
課題研究（グローバル・スタディコース）
- P42 . . . 兵庫県立姫路東高等学校 対象：全学年
Girl's Expo with Science Ethics

SDGs探究

- P44 . . . 兵庫県立明石北高等学校 対象：2年生
SDGs探究

国際関係

- P46 . . . 兵庫県立伊丹北高等学校 対象：2年生
社会の課題を解決するビジネスプランを提案しよう

商品開発

- P48 . . . 熊本県立熊本商業高等学校 対象：3年生
謎解きJクラブの軌跡

世界史

- P49 . . . 滋賀県立栗東高等学校 対象：3年生
SDGsってなんだろう？

地理研究

- P55 . . . 千葉県立東葛飾高校定時制 対象：定時4年生
地球的課題と私たち

現代社会

- P56 . . . 山形県立米沢東高等学校 対象：3年生
国際経済のまとめ

工業

P58 . . . 愛知総合工科高等学校 対象：1年生
SDGsと学校の未来

生物

P60 . . . 秋田県立新屋高等学校 対象：3年生
新屋高校SDGs授業実践

特別活動

P62 . . . 別府溝部学園高等学校 対象：1～3年生
SDGs講習会
～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

マーケティング

P64 . . . 東京都立王子総合高等学校 対象：2・3年生
現代市場とマーケティング（ソーシャルマーケティングなど）

LHR

P65 . . . 埼玉県立大宮武蔵野高等学校 対象：2年生
今考えなくてはならない事・今できる事

放課後の活動

P68 . . . 福岡県立筑紫学校 対象：2年生
SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

進路決定者講座

P70 . . . 桐朋女子中・高等学校 対象：3年生
桐朋女子×SDGsプロジェクト

特別支援学校

現代の国語

P76 . . . 福島県立平支援学校 対象：1年生
自分たちにできることは何だろう

総合探究

P78 . . . 出雲養護学校 雲南分教室 対象：1年生
SDGs ～今、自分たちにできること～

P79 . . . 出雲養護学校 雲南分教室 対象：2年生
SDGs～島根県と広島県の取り組みを知ろう～

P80 . . . 出雲養護学校 雲南分教室 対象：3年生
地域のことを考える

『現代社会の課題とその解決法』について考える

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

対象	第2学年	単元名	『現代社会の課題とその解決法』について考える
科目	「総合的な探究の時間」	目標	その1 ローカル・グローバル双方の視点で様々な課題を発見し、それらの課題を解決していくための資質・能力を育成する。 (身近な課題や、国際的な課題を、SDGsの視点で考える) その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考え、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得する。
時間	12時間		
参考資料	「未来を変える目標SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標」等		

期待できる学習効果

その1 SDGsについて、各自解決したいテーマを選び、その現状(原因)を分析した上で、その解決の方策を考えることで、課題を解決していくための資質・能力を育成することができる。

その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考えることで、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得することができる。

授業内容

『現代社会の課題とその解決法』について考える

① テーマを設定する

- ・ 現代社会の課題(身近な課題、国際的な課題)から各自探究するテーマを設定する。
- ・ SDGsとの関連について、「アイデアブック別冊」を配付し、「誰一人取り残さない」という視点から、国内外の様々な課題(貧困・差別・環境・ジェンダー・教育など)について調べさせる。(「社会の課題」を解決するために、他人ごとではなく、各自、主体的に関わっていくにはどのような方法があるか考えさせる。)
- (時事的な問題、身近な問題などを提示し、ローカル・グローバル双方の視点で考え、行動することの大切さに触れる。)
- (SDGsについては、ユーチューブの動画や、テレビ番組などで興味関心を喚起するものを選び、視聴させることで、積極的に取り組めるよう促す)
- (「アイデアブック」別冊の活用)(図書の利用…参考にした冊子の内容と、その内容に対する意見をまとめる)(タブレットなどによるweb検索の利用)

② 解決の方策について考え、お互いの意見を交流する。

- ・ 各自テーマについて調べ、「ロイロノート」を用いて、「解決したいテーマ」「原因」「理想状況」「解決への方策」について、整理し、互いに交流する。
- ・ 「キーノート」を用いて、プレゼンテーション案を作成する。(発表)

③ ①②を踏まえ、個人研究レポートを作成し、交流する。

『現代社会の課題とその解決法』について考える

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

生徒のテーマ、反応など

☆生徒選択テーマ例☆

「女性が生きやすい社会を目指して」「子どもと貧困」「ゴミ問題について」「生きにくく感じて」「勉強ができる幸せ」「水と健康の関係」「動物の大量絶滅」「日本における医療問題」

☆生徒感想抜粋☆

「今、私が平和に生きている中で、世の中ではいろいろなことが起こっているのが改めてわかりました。特に、水が当たり前きれいな日本に生きているから考えたことはほとんどなかったけど、きたない水を飲んで、年に何百万人も亡くなっていることを知り、驚きました」

「男女平等の社会を実現するためには、皆の意識を変えていくことが大切であることがわかりました」

「ゴミ問題について、3Rは私たちにも簡単にできることなので、将来の地球のためにも取り組んでいきたいです」

「水と健康の問題について、アフリカなどのことを、世界全体で考えていくべきだと思いました。身近な支援から積極的に行っていきたいです」

「子どもと貧困の問題について、貧困に陥っている人が、何億人もいるということに驚いた。少しでも皆が平等な暮らしができるといいなと思いました」

「世界では、教育を受けたくても受けられない人が多いことを知りました。当たり前に教育を受けられている今がとても幸せだと思いました。自分たちはできているからと無関心ではだめだと思いました」

「動物の絶滅について、人間の活動によって生態系が破壊されることはあってはならないと思いました」

「人は社会の中でしか生きることができないからこそ、社会をより良くすることで、自分の人生をいいものにしていくべきだと思いました」

「医療問題、特に医師不足について、私たちにできることは、必要でない時に救急車を呼ばないこと、大病院に行く前に、かかりつけ医に行くことなど、いろいろあることがわかりました」

☆生徒発表の様子☆



SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう

学校名: 東京都立総合芸術高等学校 名前: 佐々木宏

対象	2学年	単元名	SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 自分が取り組んでみたい課題を見つける その2 学校や自分が住んでいる地域につながる形で課題を言葉にする。 その3 夏休みに課題を改善解決するために必要な行動計画をつくる。
時間	2h/週		
参考資料	SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 社会にはどんな課題があり、それに取り組んでいる様々な人たちがいることに気づく
- ・その2 自分自身の興味関心と社会の課題のつながりに気づく
- ・その3 自分自身の力で社会が変わるかも知れないという気づきを得る。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

- ・自分のしたいことへの興味関心は高い生徒たちだが、専門の分野に視野が狭くなりがちである。SDGsを窓に探究することで、社会には様々な課題があり、その解決改善に取り組んで素敵な活動をしている人たちがいることを知り、自身と社会とをつなぐ通路を見つけ、視野を広くすると同時に、自身の力に気づく。
- SDGsを窓に、自身の取り組みたい課題を改善解決するために、実際に学校の外に出て、様々な社会課題に取り組んでいる素敵な人たちと出会うことで、体験的に探究する経験を得る。
- ・体験的な活動を通じて、アタマの中で考えていたことを再検証し、自分のこれからの行動について考えるヒントを得る。
- ・素晴らしい活動をしているチームや個人が、学年全体にプレゼンすることを通じて、学年全体の集団としての社会的関心と主体性を育てていく。

「問い」を深める

学校名:和洋九段女子高等学校 名前:水野修

対象	高3	単元名	総合的学習の時間
科目	総合学習	目標	・自ら設定した社会課題に対する「問い」を様々な角度から検証する ・学習内容の総合的な理解を深める ・自らの「問い」がSDGsのどのターゲットの解決につながるのかを理解する ・グループでの学び合いにより新たな気づきを得る
時間	木曜2限		
参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標		

期待できる学習効果

- ・科目を横断的に学び、複数の視点から学習内容を理解し、総合的な視野を持つことができる
- ・主体的に学び、問題解決能力や批判的思考力、創造力などを高めることができる
- ・社会と学びを結び付け、社会課題の解決へのアプローチをライフワークにすることができる

授業内容

- ①自ら設定した社会課題をグループでシェアする
- ②それぞれが設定した社会課題をSDGsの169のターゲットのどの解決に結びつけるかを“SDGsアイデアブック 別冊”を利用しながらカテゴライズする
- ③それぞれが設定した社会課題の解決方法についてグループ全員でアイデア出しを行う
- ④友達からの意見を踏まえて、改めて“問い”を考え直すことと、アクションを創造する

「問い」を深める

学校名:和洋九段女子高等学校 名前:水野修

子どもたちの反応・感想

【生徒の反応・感想】

- ・意外とSDGsのターゲットにはない問題があって、そういうものは日本特有の社会問題なのかなと思った。
- ・人の心理や考え方などが関係する問題は解決に時間がかかるし、解決法を考えてもいろんな問題が次々と出てきてアクションを考えるのに頭を抱えました。
- ・自分が興味のある課題だけでなく、友達に関心を持っている様々な社会課題についても知ることが出来て良かったです。また、友達からアクションを提案してもらうことで、自分では持っていないような視点を得られたのも良かったです。
- ・みんなの意見を聞いて、様々な理想の社会があって良かったです。
- ・今まで自分の問いやアクションを発表する機会はあったけど、それに対してのアイデアをもらう機会はなかったので貴重だと思いました。他の人の発表を含め、自分だけでは思いつかなかったことをたくさん得ることができたので参考にしたいです。
- ・自分の意見だけではなく、グループの人の意見を聞けたことで客観的な意見をもらえたり、考えもしなかったようなアクションを提案してもらえて視点が広がった。

野付巡検とSDGs

学校名: 北海道標津高等学校 名前: 高村 慎太郎

対象	1学年	単元名
科目	総合的な探求の時間	野付巡検、SDGs学習
時間	7時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGs とは何か理解を深める。 その2 SDGsの視点を持ちながら、野付半島を巡検する。 その3 巡検で感じた課題について、持続可能な社会のためには何が必要か考える。

期待できる学習効果

- ・その1 SDGs とは何かを理解し、社会に対する課題意識を持つ。
- ・その2 SDGsの視点から、野付半島に関わる環境問題について考えることができる。
- ・その3 持続可能な社会を形成するために、何が必要か考えることができる。

授業内容

1時間目 (SDGs学習)

- ・SDGsについて講義形式や動画で説明する。
- ・SDGsは何か、ワークシートに自分の言葉でまとめる。
(誰のためのどんな目標なのかをしっかりと理解させる。)
- ・17個の目標の中から、自分が興味を持った内容について調べてまとめる。

2時間目 (野付半島とSDGs)

- ・野付半島に関わる問題にはどんなことがあるか、ターゲットブックを用いて考える。
(17個の目標の中から、どれと関連が深いかを考える。)
- ・興味があるSDGsについて調べる。
(巡検に行く前に、課題意識を持てるようにし、SDGsの視点を持って巡検に望めるようにする。)

野付巡検

- ・日本最大の砂嘴である野付半島の先端部まで歩きながら巡検する。
- ・アマ藻場をはじめ、動植物を観察する。
- ・漂着物のなかからゴミを拾い、分別・回収する。

3時間目 (野付巡検の振り返り)

- ・巡検で気がついたこと、課題だと感じたことをSDGsの視点を持ちながらまとめる。
- ・海洋ゴミ問題について講義から理解を深める。

野付巡検とSDGs

学校名: 北海道標津高等学校 名前: 高村 慎太郎

授業内容2

4時間目(発表テーマの設定)

- ・環境問題に着目して、持続可能な社会を作るためには何が必要か考える。
- ・3～4人程度の班を作り、発表テーマについて話し合う。
(野付巡検で感じた課題について、SDGsとの関わりを意識しながら、どんなテーマについて調べて発表するか話し合う。)
- ・班で決めたテーマについて、まずは個人で調べる。
(野付半島の現状から、日本の現状、世界の現状に視野を広げ、現在取り組まれている内容や、今後のアクションプランを調べる。)

5～6時間目(発表準備)

- ・班ごとにパワーポイントを作成する。

7時間目(発表会)

- ・班ごとに自分たちで選んだテーマについて発表をする。
- ・発表を聞き、疑問に思ったことなどを質問する。
- ・各班の発表から学んだこと、この学習で学んだことについてまとめる。

子どもたちの反応・感想

SDGsとは何かを理解し、野付半島の環境を守っていくためには、何が必要か考えることができていた。自分たちの身近な問題として捉え、できることから行動していきたいという気持ちになっていた。



SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

対象	高校2年生	単元名	どうすればよい? 受験数学対策(SDGs編)
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGsの17の目標、169のターゲット、232の指標を知ることから、数学的な見方・考え方、活動を通して課題を発見できるようになる。 その2 指標で示された数値(数、割合等)について、その出典を調べることにより、必要な情報の収集・整理・分析ができるようになる。 その3 指標の持つ意味、数値化された情報を考察することで、数学的論拠に基づいて、批判的に問題解決の判断ができるようになる。
時間	1時間(2時間のうちの最初の1時間)		
参考資料	SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsには、17の目標と169のターゲットの他に、232の数値で示された指標があることを知り、実社会や実生活と自己との関わりについて、自分で課題を立てることができる。
- ・その2 課題を解決するために必要な情報の収集・整理をすることにより、数学的な見方・考え方を働かせ、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
- ・その3 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を養うことができる。

授業内容1

受験数学対策をテーマに、総合的な探究の時間(週1コマ)の授業を行っています。大学入試問題の対策だけでなく、高校入試問題や「ドラゴン桜」で取り上げられている学習方法など、幅広く受験数学について取り上げてみました。

この単元では、高校数学の数学Ⅰで扱う「データの分析」、数学Bで扱う「確率分布と統計的な推測」の内容が、どのように実社会や実生活と関わっているかを知るために、SDGsの232の指標について調べ、考察をしました。

受験数学対策をいうと、与えられた大学入試問題を解くことだけになりがちですが、受験まで1年以上ある高校2年生であるからこそ、1年間の受験勉強でモチベーションを保つために、その後につながる数学学習の意味づけができればと考えています。

そこで、今回の授業では、昨今幅広く取り上げられているSDGsには、17の目標と169のターゲットの他に、232の数値で示された指標があることを知り、その数値の意味を生徒と一緒に考えることにしました。

授業の始めは一斉授業のかたちで、文字としての数字だけでなく感覚的にも理解ができるように、日本の人口や世界の人口の変化をいくつかの動画をパワーポイントで紹介し、その中で具体的な数値がどのように扱われているかを確認しました。

その後、生徒は各人のタブレットを使って、232の数値で示されたSDGsの指標が、どのように資料から作られているのかを調べ、その数値の持つ意味を考察しました。

次ページの授業内容2は授業内容の説明に用いたスライド、その次の授業内容3は生徒に配布したワークシートと生徒がまとめた課題「興味を持った目標・ターゲット・指標」の一部です。

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

授業内容2



1



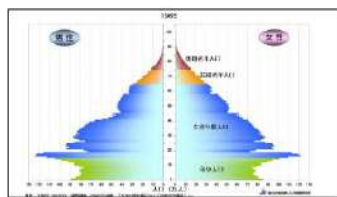
2



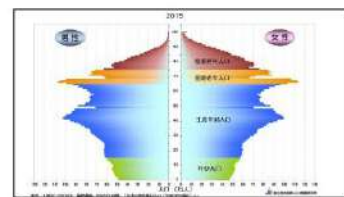
3



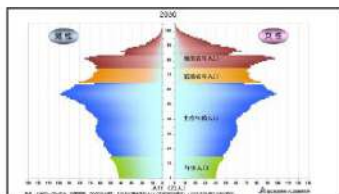
4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

授業内容3

授業で使った ワークシートの 説明文

[活動内容]

1. 資料「未来を変える目標 SDGs アイデアブック 別冊 ターゲットと指標」から興味を持った目標・ターゲット・指標を2つ選び、このワークシートに書き出す。
2. 指標に書かれている数値(〇〇の数, 〇〇の割合等)について、インターネットで調べ、その出典を書き加える。
3. その数値がどのような意味を持っているのか、数値からわかること考察して、自分の考えをまとめる。

振り返り SDGsを通して、高校数学でデータの分析・統計的な推測などを学ぶことの意味を考えてみよう。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標(番号) 8 (内容) 働きがいも 経済成長も
- ・ターゲット(番号) 8.5
- ・指標(番号) 8.5.2
- ・出典 厚生労働省
- ・意味 失業率
現代社会の日本の失業率を年ごとに
性別差 年齢 職業 職業の種類 による職業の現状を知る
- ・考察 女性より男性の方がより年齢が若い人の方が完全失業率が高く、
より収入が低くあると思われるほど失業率が高くなる。
現状を知ることで自分のライフプランを決定する一つの参考になる。
日本国内での経済格差に学問を学ばせたい、またそれを学ばせたいことを考える。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標(番号) 7 (内容) エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ・ターゲット(番号) 7.2
- ・指標(番号) 7.2.1
- ・出典 経済産業省: 最終エネルギー消費量
- ・意味 近年の最終エネルギー消費量のうち石油、石炭、天然ガス、再生可能なエネルギーの量を表している。
2019年 最終エネルギー 12941 石炭 1311
再生可能なエネルギー 43 石油 6196
- ・考察 再生可能なエネルギーの量が最終エネルギー消費のうちの
とて2割以下で、上げなければいけないことを表していると思う。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標(番号) 5 (内容) ジェンダー平等
- ・ターゲット(番号) 5.5
- ・指標(番号) 5.5.1
- ・出典 <https://www.globalnote.jp/post-3877.html>
- ・意味 2022年 女性議員比率 (上院・下院合計) 国別ランキング割合
- ・考察 各国のトップ集団での比率は日本は14.30%と低く、
けだに差がみられます。意欲的な女性がいなければ
ない、全員が全員それだと思えば、今後の日本が心配です。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標(番号) 10 (内容) 人や国の不平等をなくそう
- ・ターゲット(番号) 10.9
- ・指標(番号) 10.9.3
- ・出典 2021年以降、欧州の移住ルートで5000人以上が死亡 IOM報告
- ・意味 安全で適切な移住ルートが提供されていない。
・移民の上陸を阻止する行為「プッシュバック」。
・移民への支援が提供されていない。
- ・考察 安全なルートや支援が十分にあったとしても、受け入れる側の
国の国民に差別意識があれば、プッシュバックが増加し、
死亡する移民もそれに比例していくと考えられる。

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

生徒たちの反応

- ・これから1年間続ける受験数学のモチベーションとして、それなりに意味のあるテーマだったようで、授業中の質問だけでなく、授業後にもインターネットでよく調べてからワークシートをまとめている生徒もいました。
- ・日本の人口と世界の人口の動画に関心を持った生徒が多く、特に紀元前200年から2100年までの世界国別人口推移には、かなりの注目が集まっていました。
- ・生徒が関心を持った目標として選んだものは、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が最も多く、次に目標8「働きがいも経済成長も」でした。最近の高校生の関心は、そういったところにあることがよく分かりました。
- ・実際の数学の学習では相関係数について扱っていますが、相関関係と因果関係の違いについて説明したところ、データをどう解釈するかにも関心があったようです。

生徒たちの感想

〔振り返り〕 高校数学で「データの分析、統計的な推測などを学ぶことの意味」を考えてみよう。

- ・1つのデータをかたよった見方ではなく数値を広い意味でとらえたり、他のデータと比較したときに割合の感覚をうまく考えられるようになる。グラフからその事象と条件の関係性をみぬけるようになる。
- ・現時点で言われている数値から逆算して対策を考えることでより有効な手段をとれる。
- ・データから読みとることを学ぶことで、実際のデータが表す今の現状がくみとれる。データの読み方をしっていると知らないでは、生かせるか生かせないか決まるのでは・・・。
- ・推測されたデータなどを見ることで、将来の予測などが出来るようになる。
- ・数字や統計は現実をただ形に表しているだけのもので、それをどのように使用するかは我々によって委ねられている。統計が本当に現実をうつしているのか、ねじれた見方をしていないか吟味をし続けることも我々の大切な責任だと思う。データの分析・統計的な推測を学ぶことは現実をだれでも見られる形に変化させるために必要なことだと思う。
- ・間違えのあるデータを信じない。問題が目で見れる。
- ・統計的な推測などを学ぶことによって、私たちの現状を客観的に見ることができると感じました。
- ・(SDGsは)世に広まった当初よく騒がれていましたが、結局未だ完璧に解決したという報告は耳にしません。一度に17つもものしかも細かく分類されたことを行うというのは言うだけなら簡単ですが、実際に自ら進んでやろうとはなかなか思えないものです。今楽しければいい、と考える人が多く、将来の人たちのために・・・とも思うことそうそうないでしょう。本来であれば石油を使い燃やすとCO₂を排出するプラスチック製のペットボトルも廃止すべきだと思います。しかし、世界で普及しているため厳しいのが現状です。しょうがない、しょうがないで済ませているうちはいつまでたってもこれらの目標は実現できないのでは、と考えています。
- ・過去から未来を推測し、データとしてまとめる力を育てておくことは、過去を振り返りながら常に先を見通さなければならない現代社会において強い力になる。

久米島町で幸せに暮らしていくために必要なこと

学校名: 沖縄県立久米島高等学校 名前: 与那城美帆

対象	2年	単元名
科目	総合的な探究の時間	まちづくりプロジェクト
時間	21時間	目標
参考資料	未来を変える目標SDGs アイデアブック 別冊 ターゲットと指標	その1 地域の課題解決にとりくむことで、SDGs達成に向けて取り組む意識を育くむ。 その2 探究学習の課題を生涯にわたって取り組む自己の課題と捉えさせ、自らの進路に結びつけるようにする。

期待できる学習効果

- ・地域の課題解決に取り組む際に、SDGsと結びつけて考えさせることで、SDGsをより身近なものにし、その達成に向けて取り組む意識を育てられる。
- ・自らの故郷である島を持続可能な地域にするためにはどうするかと考えさせることで、課題を「自分事」としてとらえさせることができ、具体的な進路活動に繋げることができる。

授業内容

(1) まちづくりプロジェクトの課題を設定する際に、SDGs「17の目標」の何にあてはまるかを考え、持続可能な社会にするためにどうすればいいのかという問題意識のもと、探究活動を進める。

・「久米島で幸せに暮らすためには何が必要か」というテーマのもと、自分なりの課題を検討し、それを解決することがどのSDGsのゴール達成に関わるのかを考えた。そこから同じ問題意識を持つ生徒同士で3～4人のグループになり、教師は1人2グループを担当して指導に当たった。

→ 「自分事」として捉えさせるためのテーマであったが、将来久米島で住むのかどうかかわからない、もしくは今のところは帰ってくるつもりがない生徒たちからすると、「自分事」としては捉えづらかったようで、うまく課題設定できないグループもあった。そのため、テーマ設定としては「高校生の私が今、こうしたらいいのに！と思うこと」など、今自分がもっている課題意識にそったほうが設定しやすかったのではないかと考えられる。

・グループとして一年間取り組む課題を検討するために問いの立て方やさまざまな思考ツールを提示したが、グループによって差があり、課題設定がなかなかできないグループもあった。そのため中間発表に向けた研究計画書の作成をする際、使用する思考ツールを「KWL」「5W1H」「3つの軸」に限定して使い方を説明し、課題とは何か、仮説の立て方をどうしたらいいのか、を再度確認した。提出された研究計画書に目を通したうえでアドバイスをを行い、SDGsの視点が盛り込まれている「第2次久米島町総合計画 後期基本計画・第2次久米島町総合戦略」から該当する箇所を添付して返却した。

→ バックキャスティングの考え方で計画を立てることをきちんと指導すべきだったと反省している。そうすれば探究活動をどう進めていくか、生徒たちが主体的に考えることができたと考えられる。

久米島町で幸せに暮らしていくために必要なこと

学校名：沖縄県立久米島高等学校 名前：与那城美帆

授業内容2

・研究計画書をもとに、インタビューやアンケートを実施するなどして実態調査を行った。集めた資料や情報をもとに分析し、課題解決のためにどんな手立てがあるかを考える際、それぞれの課題に対応する169のターゲットを示し、久米島町ではどうなっているのかを指標にすることで、客観的な根拠になることを指導した。

→ 最初は「未来を変える目標SDGsアイディアブック 別冊ターゲットと指標」を配布して、生徒たちでそれぞれ考えさせたが、17の目標と対応させるだけで精いっぱいだった。169のターゲットの意味や働きを理解し、指標を久米島町に置き換えるという作業は教師が指導するべきところである。ただ、指導する側の理解不足もあり、うまく探究活動にもりこむことができなかった。

(2) まちづくりプロジェクトの活動や振り返りを通して、自分に何ができるのかを考えさせることで、自分なりの課題意識を持たせ、進路活動に繋げさせる。

・まちづくりプロジェクトの取り組みに対する反省点や成長したこと、心の変化、SDGsの達成に対する意識の変化、まちづくりプロジェクトを通して将来取り組みたいと思った課題、進路、未来に向けてのマイプロジェクトをそれぞれまとめた。

→ 自らの進路に結びつける活動の時間は3～4時間は必要だと感じた。取り組んできた課題が自分にとってどんなものか、この活動がキャリアにどう繋がるのかを丁寧に指導し、生徒に意識させることで、キャリア意識の向上に繋がると考えられる。

子どもたちの反応・感想

・生徒の変化として、SDGs達成に対する意識の変化がまちづくりプロジェクトを始める前と後では、変化した生徒が75%であった。当初、「私達が取り組んでも意味はあるのか」「自分一人の力ではどうにもできない」と意見もあったが、まちづくりプロジェクトを終えたあとには、「身近なものだと感じた」「大きなものだと思えていたので、自分に出来ることは無いと思っていたが、地域に着目して考えることで小さなことでもSDGsに繋がると言うことがわかった」「自分に出来ることをしていこうと思った」といった意見がみられた。

・まちづくりプロジェクトで取り組んだ課題を今後のマイプロジェクトとした生徒、課題とは関係せずとも、将来とSDGsの課題を結びつけている生徒を合わせると86%という結果となった。

・生徒の意見の中には、「SDGsと関連付けて考えることで見えてくる課題があると気づいた」という意見や「解決するには難しい道のりになるなと実感した。だからこそ一人一人が真剣に向き合い、早急に取り組まなければならないなと思った」「理解が深まったからこそ達成の難しさを感じた」という意見もあり、SDGs達成に取り組むことを実感として捉えられていることがうかがえた。SDGsの視点を持って身近な課題に取り組むことでSDGsの課題をより具体的に「自分ごと」として捉え、将来にわたって取り組もうとする姿勢を育むことに有効であることがわかった。

・教師の側としても、SDGsを指標とすることで課題設定や探究学習の流れがイメージしやすくなり、探究活動を指導していくうえでも有効であると考えられる。

SDGsと社会課題を学ぶ

学校名：福岡市立福岡西陵学校 名前：坂本憲史

対象	2 学年	単元名
科目	総合的な探究の時間	SDGsと社会課題を学ぶ③・④
時間	6 時間	目標
参考資料	SDGsアイデアブック	その1 SDGsの前文や宣言を確認し、歴史や背景などに関する知識を高める。今の自分が優先的に取り組もうと考える目標を選び、全員で共有する。 その2 SDGs学習を踏まえて、将来のために自分ができることを考え、行動宣言を完成させる。

期待できる学習効果

- ・各自の行動宣言から、今できること、将来できること、1人でできること、複数人でできることを含め、問題同士のつながりに気づくようになる。
- ・それぞれの行動制限をつなげていき、他人と協力することでさらに良い行動宣言が生まれるかを対話するようになる。

授業内容

【配当時間2時間】（50分×2コマ）

- ①流れの確認
- ②SDGsの前文を確認（歴史や現状）
- ③経験や興味から解決したい優先課題を選択（※SDGsアイデアブックを使用）
- ④グループで自分の課題と選択した理由を発表し意見交換を行う
- ⑤グループでの話し合いを踏まえて、解決したい課題を1つ選択する

※課題の優先じゅんいは他人と同じである必要はない。

※グループでの話し合いの結果、課題が変わっても問題はない。

SDGsと社会課題を学ぶ

学校名：福岡市立福岡西陵高等学校 名前：坂本憲史

授業内容 2

【配当時間 4 時間】（50 分×2 コマ）

- ①流れの確認
- ②「持続可能な世界」の話ワークシートを作成する
 - ・目標や課題
 - ・資料や調査方法
 - ・調査結果（インターネット）
 - ・現在の取組、将来の取組
 - ・考察結果、自分の考え
 - ・行動宣言
- ③グループで行動宣言を共有し、そこからつながりを考える
 - ・行動宣言の可視化（現在、未来、個人、複数で分類）
 - ・2030年に向かってできることを改めて考える

※行動宣言は、今からできること、将来できることなど様々な視点から考えさせる

※他人と協力することで、より良いものが生まれないかを考えさせる

進路×新聞×SDGs

学校名: 英心高等学校 名前: 中林 洋賀

対象	2年生	単元名
科目	国語	進路×新聞×SDGs
時間	6時間	目標
参考資料	アイデアブック 別冊 ターゲットと資料	①新聞の分野(面)を理解して、自分の進路に関する記事を新聞から探し出すことができる。 ②新聞の構成(見出し・リード文・記事)、文章の特徴(5W1H)などから論理的に記事を理解することができる。 ③記事に書かれている課題をSDGsの観点で洗い出すことができる。 ④発見した課題について、将来自分の仕事や役割においてどう解決できるかを考察できる。

期待できる学習効果

- ・記事の中の「事実」からSDGsの課題を発見する力、置換力、結びつけ力が育つ
- ・SDGsの目標を詳細に知り、より具体的に課題を捉えることができるようになる
- ・SDGsを自分ごと化することができる

授業内容

- ① ガイダンス、ワーク冊子配布、SDGsについて考える(SDGs for schoolのプレゼン使用)。
- ② 自分の進路とその仕事・役割がSDGsにどう関係するのかをワークシートに記入する。気になる記事を探して貼る、SDGsとの関係を簡単に考える、まとめを書く。
- ③ 気になる記事を探して貼る、SDGsとの関係を簡単に考える、まとめを書く。
- ④ SDGsとの関係性を詳細にするため、冊子「SDGsのターゲットと指標」(一般社団法人シンク・ジ・アース)を用いて考える。また、朝日新聞の「ペタッとSDGsふせん」を使用することで、各目標との関わりを可視化しやすくする。
- ⑤ 成果物(レポート)を完成させる。発表を行う
- ⑥ 未発表の生徒は生徒が発表を行う。この単元を振り返って、気づいたこと、身に付いたことを考える。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	高校2年生	単元名
科目	家庭総合	どのように暮らす？
時間	2	目標
参考資料	LIXIL SDGs HANDBOOK等	その1 日本と世界の住文化について理解を深める。 その2 環境に配慮した住まいについて科学的に理解する。 その3 快適で安全な住空間を計画するために必要なことに気づく。 その4 住居に対する価値観を確認し、主体的に住生活を営むという自覚をもつ

期待できる学習効果

- ・その1 日本や世界で、気候や風土に応じた家が発展していることを理解する。
- ・その2 これからの家に求められる機能に気づく。
- ・その3 住居に取り入れられている様々な技術を知る。
- ・その4 自身の生活を振り返り、過度に便利さや快適さを求めすぎていないか考察する。
- ・その5 SDGsと関連づけながら住まいの課題を探ることで、新たな視座の獲得する。

授業内容

住居の設計に取り組むことで、住空間と人との関係、生活行為と住居、ライフスタイルと住まいの関係等について考えさせている。本時はその前提として、住居の機能や性能、快適な暮らしを支える要因、SDGs達成に向けた新たな技術等を取り上げる。住みたい家について、ライフステージ毎に求められる住空間の変化、未来の家に求められる性能、暮らしに取り入れたい技術等についての意見交換を通して、生徒は住居に対する自身の価値観を確認したり、新たな視座を得たりする。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

＜授業の流れ＞

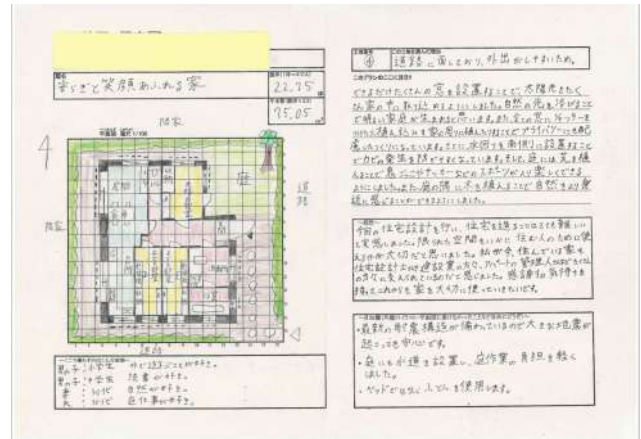
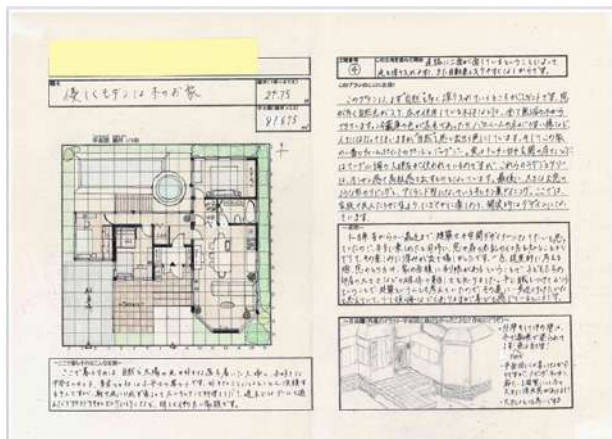
1. 三匹の子ぶたのストーリーから、気候・風土と住居の発展について考えさせる。
 - * 世界各地の住居をパワポや副教材で確認 / 気候変動にも言及
2. 日本の住居に必要な機能、性能について考えさせる。
 - * 地震と住居に関する動画視聴
3. 快適性を支える要因を知る。
 - * 通風、日照等に関する動画視聴
4. 住まい×SDGs(LIXIL 資料参考)
 - * 住まいの課題、新たな技術を取り上げる。
5. 未来の家について意見交換
6. ユニバーサルデザイン・健康等のトピック紹介
 - * 廊下の幅、ドアのデザイン、ヒートショック等
7. 住居の設計導入
 - * 平面表示記号
8. 設計図作成
 - * 残った時間で取り組み、下書き完成は後日
下書きを提出、チェック、清書を提出となる。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

- 住居の快適性を支える要因を科学的視点から見る経験は少ないようで、窓の位置と換気の実験映像、窓やサッシの進化、ZEH等は印象に残るようだ。
- 日常生活にすぐ取り込めることが少ないとの声も多く、住居分野の課題の一つである。
- 学んだことを言葉で表現することで、学びの実感する生徒も多い。
- 海外帰国生徒、在京外国人生徒が一定数いる学校であり、他国の住宅事情等について話す生徒は必ずおり、大変興味深い。
- 学びにおいて、SDGs Goal との関連を考える習慣がついており、生徒からGoal 12 への言及もある。
- 設計図は自宅作業可で取り組むため、家族に相談したり、チラシの間取り図やインテリア雑誌を見たりしながら取り組んだという感想が多く寄せられる。



What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2年生	単元名
科目	家庭総合	環境のためにできることって？
時間	2	目標
参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック、持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド等	その1 未来社会の設計者としての自覚を高める その2 SDGsに関する知識を深める その3 エシカルコンシューマーとしての行動様式を理解する その4 世界の課題を解決するための取り組みを知る

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsに関する知識を深める(成り立ち・ゴール・ターゲット等)
- ・その2 中村哲医師の活動を知り、課題解決に向けての取り組みやモデル行動を知る
- ・その3 一つの課題には、様々な問題が絡み合っていることを知る
- ・その4 求められているエシカルコンシューマーとしての行動を具体的に知る
- ・その5 学びと行動を結び付ける

授業内容

家庭科学習と関連付けながら、SDGsの成り立ち、国連広報センターの取り組み、17のゴール、169のターゲット等を取り上げる。社会課題についての理解を深め、目指すべき社会の在り方、自分自身が取り組みたいこと、行動を改めたいことなどを考えさせたい。そして、社会課題を解決するために行動した人物として中村哲医師を取り上げた。生徒は、課題解決には、時間がかかること、資金が必要であること、いくつもの問題が絡み合っていること、パートナーシップの重要性等に気づくようだ。

より良い未来を創るために、すぐに始められる行動についてそれぞれが考え、意見交換を経て、行動宣言をした。行動宣言はTeams のファイルに書き込むことで共有し、更にSDGs ゴールとの関連も示させた。

What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

＜授業の流れ＞

- (1) 「より良い未来社会を創るために、目標として定められていることは何か？」と問いかける。
 - ➔ 本校は様々な教科でSDGsについて取り組んでいるため、このような問いかけで家庭科でもSDGsについて取り上げることを生徒は察する。
- (2) 国連広報センターの動画を視聴することでSDGsの成り立ちや国連の取り組みについて学ぶ。
- (3) 中村医師の取り組み、言葉を取り上げる。生徒は様々な問題を解決してようやく目指すゴールにたどり着くことに気づく。
 - ➔ 他国で、その国の人々のために、人生をかけて課題解決に向けて多くの人を巻き込み、活動を続けた中村医師の行動に心を打たれる生徒もいる。
様々な生き方を生徒に示すことにも意味があると考えている。
- (4) エシカル行動について知り、これからの消費者はエシカルコンシューマーであることが求められていると取り上げる。
- (5) すぐに始められる具体的な行動として「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド」を紹介する。
- (6) それぞれの行動を振り返り、「エシカル宣言」を考える。
- (7) グループで意見交換をする。
- (8) 自分自身のエシカル宣言をもう一度考え、SDGs ゴールとの関連を考える。
- (9) Teams ファイルに書き込み、クラス全体で共有する。

What' s SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

- 本校では、様々な教科でSDGsについて取り上げている。国連広報センターの動画は、よくできており、生徒も興味を持って視聴する。
- Leave no one behind というフレーズは生徒の心を打つようだ。
- 生徒は、家庭科の教科書や資料集にSDGsが取り上げられていることから自分の生活行動と世界的な課題解決がつながっていることを理解するものの、自分1人の行動変容が世界の問題解決につながるという確固たる確信は持てず、揺れる想いを持ったままのようだ。そのような状況でも、意見交換の中で、それでも行動を変えてみよう、一人ひとりの行動の積み重ねで世界は変わるんじゃないかという意見が出れば、「揺れ」も共感や決意に繋がりにやすいように感じる。
- 中村哲医師の行動については、知らない生徒の方が多い。授業で取り上げることで、世界的な課題解決のために、自分も活動したい、国連で働きたいという気持ちが更に強くなったと振り返りシートに記す生徒もいる。世界を変えた人物として、今後も授業で紹介し続けたい人物だと考えている。
- 「ナマケモノにもできる…」という表現を、生徒は面白がっていた。「僕にもできるってことだよ」と嬉しそうに発言する生徒がいた。すぐできる行動を知ることが、学びを生活に取り込む習慣形成へとつながる。

What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

＜生徒の行動宣言＞

私の行動宣言	関連する17の目標 (最大3つまで)		
ペットボトルを買わず、水筒を持ち歩く。			
マイバックを常に持ち歩く			
食べれる分だけ買う・作る、食品ロスをしない			
地産地消を買う・使う			
マイバッグ、マイ箸、マイボトルを使う。ごみを正しく分別する。			
地元や被災地へ応援や支援をする。食品ロスしない。			
地元で育てられた食材を買ってみる			
勉強の時にノートなどの紙を使わずに電子化する。			
他の国に物を送る等のリユースの取り組みがあれば参加する。			
できるだけ節電する			
できるだけプラスチックで梱包してあるものを買わない。			
野菜や果物は近所の八百屋で買って地産地消に励む			
ずっと長く使えるか、本当に気に入ったものかをよく考えてから買い、長く大切に使う			
学校に自販機があることに甘えず水筒を持ってくる			
エアコンの設定温度を1.5度あげる			
服は出来れば古着を買う。			
オーガニックコットンからできた服を一枚以上持つ			
食べ物や電気などを必要最低限の消費量に抑える			
生ごみを土に混ぜて植物の肥料にする			
お皿を洗う時は汚れの少ないものから洗い、洗剤の消費を抑える			
家を出るときは必ず、マイバッグとマイペットボトルを持っていく。			
地産地消を心がけたり、旬の野菜や果物を食べるようにする。			
食べ物を残さず、皮なども利用する。			
水筒を使う。			
過剰包装のお菓子を買わない			
使い捨てではなく長期的に使えるものを買う			
最後まで使い切る・無駄遣いをしない			
プラスチック包装されているものは買わない。食品だったら、量り売りされているものを買う。			
人に優しくする			
マイバックを使う			
マイボトルを使う			
出来るだけ公共交通機関を使う			

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2	単元名	単元暮らしに必要なお金は？/ 自立した消費者とは？
科目	家庭総合	目標	その1 生活における経済と社会の関わりについて理解を深める。 その2 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深める。 その3 金融商品の特徴、選択のための考え方を知る。 その4 ライフステージ毎の課題、社会保障制度の仕組みを理解し、自身のお金の使い方を考える。
時間	2		
参考資料	未来を良くするお金の使い方等		

期待できる学習効果

- ・その1 私たちのお金の使い方と社会の関わりを知る。
- ・その2 経済計画に対する長期的な視点の必要性、重要性を理解する。
- ・その3 人生におけるリスク管理の重要性や具体的な方法について理解を深める。
- ・その4 資産形成の必要性を理解し、金融商品の選択基準を知る。
- ・その5 お金をどのように使いながら生きていくか考える。
- ・その6 金融リテラシーを獲得する。

授業内容

人生にかかるお金、生涯賃金等から「支出＜収入」とする方法を考えさせる。生活設計分野を振り返り、人生において「お金」が必要となる時期やリスク管理について言及し、生涯を見通す資金計画の重要性へとつなげる。社会人としてお金を稼ぐようになったら、天引き、先取り貯金等の「貯まる仕組み」を作ることをデフォルトとしたい。そして、資産形成の視点に触れた後、金融商品を選ぶ視点等を取り上げる動画を視聴する。動画の中で、預貯金、債券、株式、投資信託等金融商品の特征を知り、模擬資産形成体験をさせる。ここで、世界の様々な出来事が金融商品に影響を与えることも体験できる。インデックスファンド、税優遇制度があるつみたてNISA、iDeCo等具体的な名称を挙げ説明することで、「貯まる仕組み」を作る際に、これらの金融商品が選択肢となることを期待する。最後は「お金をどう使うか考えることは、どう生きるかを考えること。未来を良くするお金の使い方を考えよう、お金を未来を変える力にしよう」と結んだ。

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

＜授業の流れ＞

1. 金融リテラシーについて説明する。
2. 人生にかかるお金を予想する。
→ 様々なリスクにも言及しておく。
3. 人生で得られるお金を予想する。
4. 「支出＜収入」とする方法を考える。
5. 預貯金、債券、株式、投資信託等の金融商品の特徴を知る。
→ 単利vs複利 / 安全性、流動性、収益性 / 金融商品に対するリスク許容度 / 72の法則等にも言及する。
→ 預貯金は金額は減らないが、価値の変動はあることを伝える。
→ 投資は「未来の自分のために今の自分のお金や時間を使うこと」とも説明しておく。
6. 模擬資産形成を体験する。
7. 投資信託の一つであるインデックスファンドについて取り上げる。
→ 投資信託の「コスト」についても説明する。
→ コストが安い、分散投資等のメリットから、インデックスファンドは具体例としてふさわしいと考えている。
→ GPIFの資産形成、預貯金と投資のつながり、他国の資産形成の在り方、日本の若者世代の動向等を伝え、国としても預貯金から投資へ舵を切ったことを伝える。
8. 税優遇制度があるつみたてNISA、iDeCoについて説明する。
→ ここで「長期・積立・分散投資」を説明する。
9. 金融商品の選び方について考えさせる。
10. SDGsのゴール達成を意識した金融商品について言及する。
→ SDGs × 金融 として、ESG投資、ワクチン債等を取り上げる。お金を未来を変える力になる。
→ 社会課題を解決するためのお金の使い方について考えさせる。
11. 意見交換を経て、お金の使い方や金融商品の選び方についてもう一度考えさせる。
12. 振り返りでは、「金融リテラシー」を身に付ける必要性について考えさせる。

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

○お金の話は、生徒の関心も高い。ある程度学習が進んだ時期でもあり、経済的自立、労働基準法、社会保障制度等ともつなげやすい。

○自分でもすぐできることとして、寄付を挙げる生徒は多い。アメリカの4つの貯金箱なども紹介したが、次の世代が創る日本社会では、もっと寄付という行為が一般的になる手ごたえがあった。

○ワークシートには次のような記述があった。

- ・色々な金融商品を利用して資産を形成する。安全なものもハイリスクだけどリターンが大きいものもバランスよく。
- ・安全性より収益性が長期に亘って継続される商品を選び、資産形成するのがいいと思う。
- ・自分の資産の半分くらいは預貯金で安全性を重視して、残りの半分はつみたてNISA、iDeCoで国の金融政策を使いながら、長期に資産形成すればいいと思った。

○金融リテラシーを身に付ける必要性については次のような記述があった。

- ・必要なお金と収入のバランスを考えるスキルを学べば、お金の管理で困ることはなくなる。
- ・金融商品の特徴を知ること、責任をもってお金を使えるようになる。
- ・高校生で、生涯の経済計画や金融商品について学ぶことで、自立した大人になるための学びにあてる時間を十分持てる。
- ・自分やまわりの人を守れるようになる。
- ・長期のメリットは大きいので、早く始めるべき
- ・お金を持つこと、稼ぐことの責任や大変さを知ることは、親への感謝を再確認する機会になる。

未来社会の設計者

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2年	単元名
科目	家庭総合	生活を見つめてみよう
時間	2	目標
参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック等	その1 持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深める その2 SDGsに関する知識を深める その3 社会課題を知る その4 自身の行動を振り、ライフスタイルを工夫する

期待できる学習効果

- ・その1 未来社会の設計者としての自覚を高める
- ・その2 SDGsや現代の社会課題に関する知識の定着を図る
- ・その3 意見交換を通して、様々な見方を知る。
- ・その4 学びを行動に結びつける

授業内容

家庭科学習のテーマとしてSDGsの達成を設定してきた。Goal に注目することが多かったので、まとめとしてTargetに注目し、未来社会の設計者としてできること考えた。

家庭科学習を振り返りながら、SDGsの成り立ち、国連広報センターの取り組み、17のゴール、169のターゲット等を取り上げる。1年間の学びを振り返る中でMDGsを経てSDGsが生まれたことへの認識が弱いと感じたので、本時はMDGsについても意識的に強調した。生徒は、目指すべき社会の在り方、自分自身が取り組みたいこと、改めたい行動等について考えた。持続可能な未来社会の構築のためには、一人ひとりの消費生活の在り方が問われていることを認識してほしい。そして、一人で考える→意見交換をする→再び1人で考える ことで、思考の深化を期待している。

国連広報センターの動画、グループでの意見交換、代表者の発表は、生徒の興味を強く喚起するように感じた。

未来社会の設計者

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

<授業の流れ>

- (1) 「より良い未来社会を創るために、目標として定められていることは何か？」と問いかける。
本校は様々な教科でSDGsについて取り組んでいるため、「SDGs」と声があがる。
- (2) 国連広報センターの動画を視聴することでSDGsの成り立ちや国連の取り組みについて思い出す。
- (3) Goal については、何回か取り上げており、本日はTargetに注目することを伝える。
- (4) Goal 2 Target の穴埋め課題に取り組む。キーワードの穴埋めであり、これまでの学びから予想できる。
- (5) Targetが示された教材を配布する。
- (6) Target も参考にしながら、改善のための取り組みが急がれる、興味あるGoalを選び、改善のためにできることを考える。
- (7) グループで意見交換をする。
- (8) 代表者が意見交換の内容を発表し、クラスで共有する。
- (9) 意見交換、発表を踏まえ、もう一度できることを考える。

子どもたちの反応・感想

- ワークシートには、SDGs GoalやTarget を達成するためにできることとして、エコバック・マイボトルの持参、紙ではなく電子データでの記録・保管、使い捨て商品の廃止、洋服のリサイクルやリユース、社会的弱者への配慮行動、電子機器の適正なリサイクル等が記されていた。
- 生徒にとって、分かりやすい「大量消費」はプラスチックだ。プラスチックの海洋汚染、他国への影響、環境負荷等に言及した生徒が多い。
- 気候変動、自然災害について取り上げた生徒は、自助・共助への準備に触れ、地域社会の一員として地域の活動に参加することの必要性を述べている。この視点は、授業に取り入れるべきだ。
- Goal 達成のためには、資金も必要であり、寄付やESG投資等もこれまで取り上げてきた。残念ながら、寄付やESG投資等について言及した生徒は数名であり、取り上げ方の再考が必要である。
- 本校の場合、英語が母語の生徒がいる、英語の学習意欲が高いことから、Goal とTarget の日米併記の希望があった。



SDGsと私たちの生活

学校名:宮城県泉館山高等学校 名前: 天川葉子

対象	高校1年	単元名
科目	家庭基礎	オリエンテーション
時間	3時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsの目標についての理解を深める。 その2 私たちの生活とSDGsの17の目標との関連を知る。 その3 SDGsと関連付ける活動をととして、家庭基礎の学習についての見通しをもつ。

期待できる学習効果

- ・その1 世界中の様々な取り組みを知り、17の目標についての具体的なイメージをもつことができる。
- ・その2 具体的な取り組みを知り、自分の生活に取り入れられることを考えることで、SDGsの目標を自分事として捉えることができる。
- ・その3 今後の学習に対する興味関心を高めることができる。

授業内容

- 1時間目
アイデアブックを個人で読み、関心をもった取り組みやSDGsの目標を挙げる。
グループ内でそれぞれが関心をもった取り組みや項目について発表し合い、共有する。
- 2時間目
前時に個人で出し合った取り組みや項目の中から、自分たちの生活にかかわる内容をグループで一つ選び、今後生活する上でどう行動すればよいか、また自分たちが意識したいことやその解決に向けた課題などを話し合う。
- 3時間目
前時までに話し合った内容をグループごとに発表し、クラス内で共有する。その際、発表を聴いて、その発想に共感できる点などを書き出すことで自分事として捉えられるようにする。

SDGsと私たちの生活

学校名:宮城県泉館山高等学校 名前:天川葉子

子どもたちの反応・感想

学習の過程において、生徒たちは様々な視点で生活の課題や社会の矛盾に気づき、一人一人、思想や思考は異なるものの、自分だけの価値観にとらわれすぎず、広い視野で生活することの大切さに気づいたようだった。また、家庭基礎の科目を学ぶ意義やその内容についての理解を深めることができたようである。

SDG's目標14「海の資源を守ろう」 現在の環境を具体的に考える

学校名: 東海大学山形高等学校 名前: 柴田 昌樹

対象	1学年	単元名
科目	現代文明論	現代文明論
時間	1時間	目標
参考資料	・木こりのゲーム ・ユニセフホームページ	・世界の海洋環境の現状・課題を認識する。 ・マグロの資源ゲームを通し、水産資源を維持していくために心がけなくてはならないことと、海はどこかの国のものではなく、世界の共有財産であるということを理解する。

期待できる学習効果

- ・自国の海洋問題だけでなく世界の海洋問題について認識し、世界で何が起きているかを知ることによって日常生活を意識し、環境問題へ目を向けるきっかけをつくる。
- ・海洋資源は自国の利益のみを考えた利己的な考えでは枯渇し、各国が協力してバランスを考え共有していく必要があると理解することで、他の事象でも同様に考えることのできる視点を身につける。

授業内容

・本校独自科目である現代文明論の授業内において、学年の担任団が一人ずつSDG'sの17の中から1つのテーマをそれぞれ選択し、全クラスをローテーションしながら授業を行った。

今回、学年担任団の一人としてSDG'sの目標14「海の資源を守ろう」に関して50分の中で前半、後半に分けて授業を行い、前半の約20分は「海の豊かさを守ろう」がターゲットとしているものの確認と、現状の資源問題を各自で考え、ユニセフのホームページにある動画を視聴することで、現在世界が抱えている海洋のごみ問題と、それによって生じる生態系への影響について学び、紙面に簡潔にまとめる作業を行った。

後半の30分は木こりのゲームをベースにして徳島大学で作成されたマグロの資源管理ゲームをより簡易的なものにしたロールプレイングを行い、水産資源の有限さと、資源の枯渇がどのように招かれるのかをゲーム形式で学習した。

はじめに、クラス全体に対して「海洋問題」と聞いて思い浮かぶものを質問したところ、多くのクラスで「海洋汚染」というワードが全体を占め、「海洋資源」というワードが上がらなかった。これを踏まえ、多くの生徒の考える海洋問題として一般的に思い浮かぶのは海洋汚染問題であり、海洋資源の減少があまり身近でないワードであることに触れ、現在世界で減少している水産食糧資源の1つとして、マグロを取りあげ、自身が漁師になることで他者とマグロを取りあう、マグロの水産資源の管理ゲームを行った。

マグロの漁業管理ゲームは9ターンの間に毎ターン全員が漁業を行い、A～Eの5つの漁場からマグロを狩猟するかしないかを選び、最終的な総額を競うゲームである。各漁場のマグロは毎ターン成長し、値段も跳ね上がっていくが、一度収穫されると振り出しに戻り、また1から成長していくことになる。9ターンを終えた後に総額を競うことになるが、他者にとられまいと乱獲していくと結果的に大きな利益を得られず、漁場が育たず、全員がまとめた成果を得られずに終わってしまうが、漁業をむやみにせず、協力して漁場を育てていくことで、全員が大きな利益を稼ぐことができ、結果的に誰もが得をすることになるゲームである。

SDG's目標14「海の資源を守ろう」 現在の環境を具体的に考える

学校名: 東海大学山形高等学校 名前: 柴田 昌樹

授業内容

最初、「周りに勝つこと」を目標にゲームを行ったところ、3ターンまでの序盤にマグロを収穫する生徒が大半を占め、結果的に勝者は生まれたものの、大きな利益を得るものはほとんどいなかった。その後、競争ではなく、一人一人が最大の利益をだすためにはどのようにしたらよいか考えながらゲームを各班で好きなように行うように指示したところ、徐々に話し合いや、協力が生まれ、結果的に最後まで漁場で漁をせず、最後で一人一人が各漁場を選択するという班が出てきた。

ゲームを通して、各プレイヤーそれぞれを国に例えた場合、自国の利益のために漁業を一方的に続けると漁場が壊滅するばかりではなく、各国の利益が大きく損なわれ、全体としても不利益を被ることを実感し、環境を維持するためには他国との協力が必要であることを学んだ。

ゲーム終了後は現在、マグロが減少している原因をこのことと関連付けまとめさせ、枯渇を防ぐためには日々の何気ない食事などに対する意識が重要であるという認識を必要であるとまとめたうえで、感想を書き、ロイロノートへ提出をすることで完了とした。

子どもたちの反応・感想

マグロをやって気づいたこと
各プレイヤーを「各国」と考えると、これとこの考え方で漁業をやっている争い(じゃんけん)が起きたり、すんなり魚をとったりして、経済に差が起きてきた。この活動を通してEEAの大切さを知りました。また、海洋生物のおかげで、国の経済が成り立っているところがあると考えると、海洋生物を断やしてはいけないと思いました。また、多くの人が挙げた、海洋プラスチック問題も海洋生物減少に大きく関係していると思った。

少し考えれば、みんなが得になると分かるのに、それに気づかず自分が得になることだけを考えていたり、みんなが得になることに気づいていても邪魔をする人もいることが分かった。

欲張らない方がみんなのためになるけど、欲張らないと自分の利益にならない。
海洋資源を豊かにし続けるには育たせる時間が必要。

1学期探究プロジェクト 八王子動画プロジェクト

学校名:工学院大学附属高等学校 名前:中川千穂

対象	高等学校1年生	単元名
科目	総合探究	1学期総合探究の時間 グループ探究プロジェクト
時間	土曜日4時間目	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 プロジェクトマネジメントを学ぶ その2 社会と繋がる その3 チームワークを育成する

期待できる学習効果

- ・その1 計画立案能力の育成
- ・その2 社会常識を学ぶ
- ・その3 協働能力の育成

授業内容

①視点を広げる

高等学校1年生、入学直後からこのプロジェクトを始めました。入学式翌日から始まるオリエンテーションで、生徒たちは貿易ゲームをしました。6人前後のグループが一つの国となります。各グループには、紙、コンパス、鉛筆、定規、はさみ、クリップが、不平等に配付されます。それぞれの品は、資源、技術、お金を表します。紙で作った三角や円を世界銀行に売るとお金になります。最も儲かった人が勝ちです。初対面の生徒同士が協力して紙を切ったり、長さを測ったり、世界銀行に売りに行ったり、作業しました。最も儲かったチームは、他国を巻き込んで、資源を格安で手に入れたり、労働力を買うこともありました。比較的儲かったチームは皆、産業廃棄物の紙ごみが周りに散らばっていました。この後、各チームで反省会をしました。まず、自らの働きぶり、それから、社会、世界の中で貢献したかどうか、です。儲けることを目標としたためか、社会貢献の視点が欠けていたことに気付きました。最後に、実際の世界情勢と照らし合わせてみました。一体、何が問題なのだろうか。それを解決するにはどうしたらよいのだろうか。各チームで話し合いました。SDGsのどのゴールが問題となるかを考えました。各クラスの本棚にSDGsの書籍を置き、各チームで活用しながら、考えました。

②地元を考える

貿易ゲームの後、八王子市役所の方々にお越しいただき、地元の魅力について講演していただきました。本校は東京都八王子市に位置し、地元を知ろう、という取り組みです。八王子市は、高尾山などが日本遺産に認定されており、絹織物など伝統工芸品の保全に取り組んでいます。地域活性化を目指して、八王子市の広報活動を実施できれば、と思い、生徒たちは八王子市の魅力を学び、考え、そのアピール方法を考えました。

③自分ができることを考える

総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

対象 1

科目 探究

時間 5

参考資料

SDGsアイデアブック等

単元名

SDGsに関する具体的な取り組みを知る

目標

SDGsに関する具体的な取り組みを知る

期待できる学習効果

- ・ SDGsに関する具体的な取り組みを知り、自分でも出来る取り組みを考える。
- ・ 自分が何が出来るか、何をすべきかを考え、行動につなげる。

授業内容

SDGsアイデアブックから興味関心を持った取り組みを調べる。
タブレット等を活用する。

感想をオンラインで記入させ、閲覧させた。



総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

授業内容2

SDGsの具体的事例を知り、自分に何ができるか考える。
自分が何ができるか、何をすべきかを考え、行動につなげる。



子どもたちの反応・感想

この世界にはたくさんの人のアイデアが実現化されているのだと思いました。貧困の人や飢餓状態の人は年々減少はしているがまだまだ世界中にいるのもっと多くのアイデアを出して少しでも多くの人を助けられるような社会になればいいなと思います。

世界中の貧困をなくしたりするために空気中の水蒸気を集めて水にしたり、排泄物を肥料にしたりなどリサイクルや工夫がされていることがあった。自分の父がリサイクル活動などをしているので積極的に参加していきたい。

私達のような学生でも個人でできるようなことがたくさんあったので実践していきたいです。自分が良ければそれでいいという考えではなくたくさんの人ができるだけ平等に幸せに暮らせる世界になればいいなと思いました。

今回の授業でまたSDGsについて考えることができました。貧困をなくしたり、自然を守ったり様々なことを解決しなければならぬので難しいとは思いますが2030年までに少しでも問題が解決したらいいなと思います。特に温暖化の進みを遅くするための行動は少しでも取らないといろんな生物が絶滅するかもしれないのでそこを変えるべきだと思います。

高1「探究基礎」、高2「探究」

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 田口 朋美

対象 高校1、2年

科目 探究基礎・探究

時間 2単位

参考資料

単元名

情報収集、テーマ設定

目標

その1:SDGs目標をもとに地元の「解決したい課題」を協力しながら見つけることができる。
 その2:「解決したい課題」を具体化し、より身近な問題として自分たちの活動で解決に近づけられるような仮説を立てることができる。
 その3:「解決したい課題」に向けた仮説をどのように検証していくのか、どのような流れで活動を進めていくのか、計画を立てることができる。

期待できる学習効果

- ・その1:地域社会に目を向けるきっかけとなり、社会構造について関心を持つ
- ・その2:社会問題を自分ごとにする
- ・その3:情報の精査や検証を通して試行錯誤する力を身につける

授業内容

仮説の検証に向けて、文献調査やフィールドワーク、アンケートやインターネット検索など各自で選択し、活動する。(条件:検証は2種類以上の手法で行うこと)

本校の図書室にコーナーを設置。調べていくときのキーワードを見つけるのに資料は役立っているようです。



手に取りやすい場所に設置することで様々な生徒(中学生や高校生、先生方)が手に取っているようです。



課題研究(グローバル・スタディコース)

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

対象	2年	単元名
科目	課題研究	課題決定のためのブレインストーミング
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsの全体的概要を把握する その2 自らの関心に基づいて、設定するテーマの候補をあげる その3 テーマとSDGsの関係を掘り下げていく

期待できる学習効果

- ・その1 今、世界でどのような社会課題があるのかを、概観できる。
- ・その2 自らが社会とどのように関わっていくのかを考えていく契機となる。
- ・その3 具体的な社会的アクションを考えるヒントを得ることが出来る

授業内容

- ① 自らの興味・関心に基づき、課題研究のテーマとなる事柄を、ブレスト形式で思いつくままにあげていく。
- ② ①であげた項目を整理し、テーマとなる事柄を2～5項目くらいにまとめる。
- ③ アイデアブックをつかって、②の項目のそれぞれがどのカテゴリーと関連するかを考える
- ④ ③で考察した結果をまとめて、学習アプリ・ロイロノートを使って、教員やクラスの他のメンバーと共有する。

課題研究(グローバル・スタディコース)

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

子どもたちの反応・感想

授業内容の④のロイロノートの「提出箱」のスクショを添付します。

×

テーマとSDGsのターゲットの関連

画面配信

無記名 回答共有中 一括返却

④ 締切 選択 比較

賢しさゆえに、 幼い頃から働かねばならず、 学校に行くことができない 関連 目標3 貧困をなくそう 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年6月7日 08:52	食品ロス ターゲット12.3 2030年までに小売・消費レベルに おける世界全体の一人当たりの食 料の廃棄を半減させ、収穫後損失 などの生産・サプライチェーンに おける食品ロスを減らす 2022年6月7日 08:56	14.1 2025年までに、海洋漂着物や 富栄養化を含め、特に陸上活動か らの汚染による、あらゆる種類の 海洋汚染を防ぎ大幅に減らす。 プラスチックごみの密度 2022年6月7日 09:08	13.2 気候変動の対策を、国の制作や戦略、計画 に統合する。 13.3 気候変動の緩和期と適応期、影響の軽減、 早期警戒に関する教育、意識、人的能力、 知識の対応能力を改善する。 2022年6月7日 09:13	歴史認識の歪 7.4 2030年までに、すべての学習者が、とり わけ持続可能な開発のための教育と、持続 可能なライフスタイル、人権、ジェンダー 平等、平和と非暴力文化の推進、グローバ ル・シタズンシップ、文化多様性の尊重、 持続可能な開発を促進するために必要な知 2022年6月7日 09:15	気候変動による影響を軽減するための目標設定として、 気候変動に関する目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を策定する。 12.3 気候変動に関する目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を策定する。 12.3 気候変動に関する目標を設定し、目標達成に向けた行動計画を策定する。 2022年6月7日 09:26	体の性と心の性の区別について トイレ、更衣室、温泉、スポーツ トランス女性と偽った男性による 性犯罪 スポーツの身体的優位性 +5.2, 5.6 10.2 1/3 2022年6月7日 09:27
自転車通学、自転車レーンを作り歩行者と自 転車、自転車と自動車の道を区別し交通事 故を減らすこと 「3人すべての人に健康と福祉を 実現」3.6 世界の交通事故による死者数を 半分に減らす 目標11.2 公共交通機関の拡大によって交 通の安全性を改善する 2022年6月7日 09:30	男女間の賃金・雇用格差 同一賃金の実行 8.5 8.8 1/3 2022年6月7日 09:30	地球温暖化 11.6 二酸化炭素などを減らしたりする ことが大切だと思う 1/8 2022年6月7日 09:30	・タバコの喫煙とポイ捨て ③ターゲット6 喫煙者とその周りの健康 ④ターゲット4 路上や駅構内にポイ捨て ⑤ターゲット1 海洋汚染 2022年6月7日 09:30	待機児童 ターゲット4.2 待機児童がでることでもその親が職 につけなかったり、少子化につな がるため就学前教育を受けられる ようにする。 2022年6月7日 09:30	3 3.6 感染症や非感染症のワクチンや医薬品の研究開発を助めて、 COVID-19をインフルエンザのように治る 感染症にしたら制限がなくなると思う 3.8 すべての人が保健サービスや 医薬品、ワクチンを利用しにくい 2022年6月7日 09:30	
戦争や紛争で困った難民を救済するために 目標16 平和と正義をすべての人に 15.12 動物の保護をすべての人に 15.12 動物の保護をすべての人に 2022年6月7日 09:30	美しい景観を作り、人を惹きつ け、経済発展を促進する都市計画 建築による豊中市の商業発展 →8.9.10 1/2 2022年6月7日 09:47	世界平均の学校進学率を達成 世界平均の学校進学率を達成 1/2 2022年6月13日 21:35	不景気 ターゲット8.1 日本のGDP上昇率の停滞 1/5 2022年6月14日 08:09	・SNSの誹謗中傷対策を考える ・目標16「すべての場所であらゆる 形態の暴力と暴力関連の死亡に 率を大幅に減らす」 ・道徳的精神を強く ・諸語中絶をしてしまう理由を考 2022年6月14日 08:42	4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年6月14日 09:05	目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年6月14日 09:17
2. 動画をゼロに 言語を学ぶのが好きだからいろんな国に 行くとコミュニケーションをとってがんばる 2.2 外国の異文化の子供たちが好きでみんなとご飯を食 べず言葉が通じない状況が課題 それを改善するために異文化言語でコミュ ニケーションを外国の異文化の人にとって、こ の課題を解決してあげる。 2022年6月14日 09:17	老後の介護の人手不足 目標: 3.8 若者の生活保護な どの制度の充実 8.6 若者の就業率を増やす 2022年6月14日 09:22	食べられる廃棄物→持ち帰り制度(予定) →食育→農業関係の支援→海外支援 →技術交流 2.3, 2.6, 12.3, 12.6, 17.10 1/2 2022年6月14日 09:24	11番 住み続けられるまちづくりを 1/4 2022年6月14日 09:27	・SNSの誹謗中傷対策を考える ・目標16「すべての場所であらゆる 形態の暴力と暴力関連の死亡に 率を大幅に減らす」 ・道徳的精神を強く ・諸語中絶をしてしまう理由を考 2022年6月21日 09:00	目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年7月12日 09:16	ネットでの誹謗中傷による被害が増えている 誹謗中傷が激しくなってきたことから誹謗中傷の被害 から身を守る方法を考える。 誹謗中傷の被害から身を守る方法を考える。 誹謗中傷の被害から身を守る方法を考える。 2022年7月12日 09:16
目標3.6 全ての国々において、たばこの規制に関 する世界保健機関の勧告の実施を速急 化する ・最近大人たちがタバコを吸ってないけ れば、タバコとの距離が保て、未成年者 が喫煙に誘われることも少なくなる。 ・子供の健康が保てる。 2022年7月12日 09:16	保育園の少なさによる待機児童問題 1, 2, 3, 16 2022年7月12日 09:19	ネット犯罪 (オンラインショッピングや 盗難被害、サイバー攻撃) 4.4 4.4 経済や働きがいのある人間らしい仕事、必 要に必要な、持続的・発展的・人間的な成長を持 続する。 →経済的・社会的なインフラを整え、経済や働きがい を高める。 2.1 目標 1, 2 達成12.3.12.6において (16) 持続可能な 開発目標を達成するための目標設定 →目標達成に向けた目標設定 2022年7月12日 09:19	13 地球温暖化・異常気象 2022年7月12日 09:20	4.質の高い教育をみんなに (4.3) 学校間格差 2022年7月12日 09:21	目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年7月12日 09:25	目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 目標4 質の高い教育をみんなに 2022年9月27日 08:42

Girl's Expo with Science Ethics

学校名:兵庫県立姫路東高等学校 名前:川勝和哉

対象	全国の高校生	単元名	課題研究、総合的な探究の時間での学びを全国の高校生とともに発表する
科目	課題研究等	目標	その1 課題研究や総合的な探究の時間で女子教育の目的を学び、発表会で将来の目標を持つ女子が希望を主張し社会で活躍する意欲を向上させる その2 Girl's Expoで全国の女子高校生に日頃の学びについて発表する場を提供することで女子教育を推進する その3 全国の男女の高校生に学びの場を提供する
時間	1日		
参考資料	アイデアブック SDGsの基礎、実践(事業構想大学院大学)		

期待できる学習効果

- ・その1 客観的な事実に基づいてSNS等に惑わされずに自ら主体的に判断する力を養うことができる。
- ・その2 生徒が主体的に課題を自分に引き寄せ、深い思考をすることができる。さらにそれをグループ内で共有することによって、立場や視点の違いによる考え方の違いを理解する。
- ・その3 全国の高校生と交流を持つことによって、それらの思考を深化させることができる。
- ・その4 学校教員も日頃の言動について考え、より人権に配慮するように変化することが期待できる。

授業内容

● 課題意識

本校近隣の女子生徒には、(明確な進路の希望をもっていても)保護者に忖度する形で、希望通りの遠方の大学をあきらめて、家から通えるところに進学している者が少なくない。その後就職しても(結果的に希望通りの企業に就職できない)希望通りの大学に進学しなかったことをずっと後悔しているという卒業生も多い。大学院に進学しようとする女子には厳しい状況があり、また入社の際にも、入社してから、男女の明確な格差が存在している。聞くと、このような状況は本校周囲だけではなく、全国で見られるという。

女子も将来の希望があればそれを主張し、男子と同様に自分の将来を主張できるのだということを体感してもらいたい。男女格差が存在している社会を変革する必要があるということを男子にも理解してもらいたい。これが根本にある課題意識である。

● 課題研究

本校2年次理系生徒は週2単位で課題研究を行っている。そのうち希望する女子生徒は、全国の女子による課題研究のフェアとして本校が主催するGirl's Expo with Science Ethicsで発表する。このフェアは、全国の希望する女子生徒の研究発表の場であり、女子生徒に希望の光を当てるためのものである。なお、このフェアは同時に科学倫理に関する課題研究発表の場でもありそこでは男子の研究発表も行われる。

● 総合的な探究の時間等

2年次文系生徒は、総合的な探究の時間で課題研究を行っている。ここでも希望する女子生徒の研究をGirl's Expo with Science Ethicsで発表する。さらに、本校の生物探究や英語表現など、多くの教科・科目で行っている課題研究からも希望を募る。

● Girl's Expo with Science Ethics

男女が一緒になってフェアで課題を共有する。女子生徒の保護者に対する講演会も行い、女子生徒の社会活躍についての理解を深めてもらう。基調講演として、ジェンダー論の活動で有名な大隅典子東北大学副学長に会場にいらした。



Girl's Expo with Science Ethics

学校名:兵庫県立姫路東高等学校 名前:川勝和哉

● Girl's Expo with Science Ethicsの詳細

日時:令和 6年2月12日(月・振休)9:00~16:00

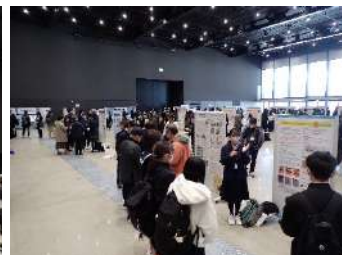
場所:姫路市文化コンベンションセンター「アクリエひめじ」展示場、会議室

Girl's Expoの対象者:本校および全国の希望する女子高校生、男子高校生、近隣の小中学生、教員、保護者、助言者(大学教員15名、大学生8名、企業3社、大学4校)、合計約990名

基調講演:「Girls Need Science, Science Needs Girls」

大隅典子氏(東北大学副学長)

保護者演題:教育や経験は何にも代えがたい財産～外資系製薬企業での経験から～
三井貴子氏(バイオジェン・ジャパン社)



生徒の反応・感想

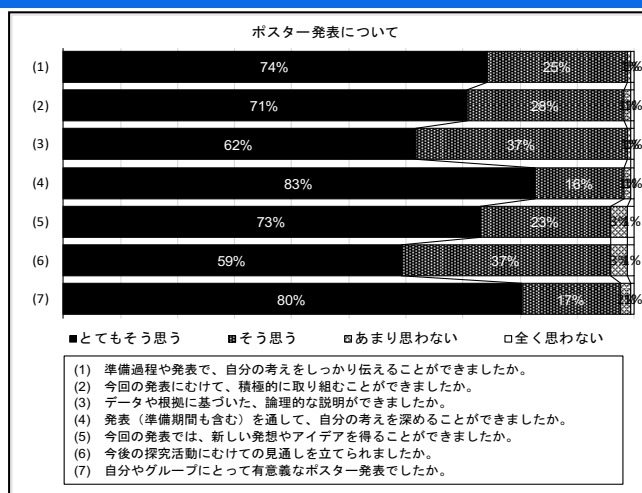
● Q7「有意義であったか」の項目で、年齢や性別、所属の違う人たちと関わり、様々な指摘・助言をもらったことを肯定的に捉えている生徒が非常に多い。

【生徒の感想】

● 大隅先生のお話を聞いて、全ての理系の分野において、より多くの女性が求められていることを再実感しました。研究者、科学者、医者などの職業を思い浮かべると、多くの人が男性を思い浮かべるのは、日本社会に根強く残るバイアスだと思います。こうした偏見を少しずつでも無くしていけるのは、正直今現役の大人でなく、学生の頃からこういった話をよく耳にする私達世代だと思います。男性も女性も両方が偏見にとらわれず、自分が進みたい道に迷いなく進める社会が早く実現してほしいと改めて考えさせられました。

● 理系の道へ進む女性が少ないという結果を聞いて、世界と比べてこんなにも違うのかとびっくりしました。今回日本の現状を知ることができたので、次は自分の力で何か現状を変えられる方法はないか考え、些細なことでも良いので自分できることをしていけたら良いなと思いました。

● 自分たちと同じように発表しているのを聞いて県外や市外から来ている人や英語での発表などもあり同じ高校生でもそれぞれ異なったおもしろさがあるなと感じた。自分は疑問に思わなかったことも質問を通して、その視点はなかったなと多くの発見があった。



(SSH推進部長 主幹教諭 川勝和哉)

SDGs探究

学校名:兵庫県立明石北高等学校 名前:三嶋文子

対象	2年生	単元名
科目	SDGs探究	1学期:SDGsについて知る 「町の中のあれ?」を探す 問いづくり 2学期:グループに分かれての探究活動 3学期:コンテストへのエントリー 校内発表
時間	週1時間	目標
参考資料	アイデアブック	その1 SDGsについての正確な知識を得る その2 身近なSDGsに関する課題を探究する その3 探究した成果を校内・校外に発表する

期待できる学習効果

- ・その1 1年間グループで探究活動を進める際に、SDGsに関する理解を共有する
- ・その2 SDGsの課題を身近な問題としてとらえて探究する
- ・その3 自分たちの探究の成果を発表し、意見・批判を受けて探究内容をブラッシュアップする

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

[1学期]

- ・SDGsとは何か、「プラスチック問題」を取り上げ、SDGsについて具体的に考える。
- ・GW課題 「町の中のあれ?」と題して身近な地域が抱えている問題を探すことで、今後探究していくテーマを考えるきっかけづくりをする。
- ・GW課題を受けて、興味関心の似通った生徒通しで班を作り探究班とする。
- ・テーマの焦点化 探究班で自分たちの興味関心がSDGsのどのGOALと関連しているか、どのTargetについて深めたいかについて、KJ法などを用いながら課題を焦点化していく。
- ・問いづくり 焦点化させたテーマについて、問いをつくり、「開いた問い」と「閉じた問い」に分ける。
- ・「閉じた問い」について、夏休みに調査する。

[2学期]

- ・夏休みの調査結果を班内で共有する。
- 探究活動を進めるために…
- ・「アンケート調査の方法」について講義を受ける。
 - ・外部機関の専門家から「レポートの作成方法」の講義を受けるとともに、「探究内容にかかわる新たな視点」のアドバイスを受ける。
 - ・「SDGs Quest みらい甲子園」(コンテスト)へのエントリーを目標に、探究活動を深化させる。
 - ・各班の探究の途中経過を確認するための「中間発表会」を行い、様々な質問や意見を受けて、探究をブラッシュアップさせる。

SDGs探究

学校名:兵庫県立明石北高等学校 名前:三嶋文子

授業内容2

- ・探究内容を「SDGs Quest みらい甲子園」のエントリーシートにあわせた記述に整える。
- ・12月に「SDGs Quest みらい甲子園」へのエントリーを完了する。

[3学期]

- ・「SDGs Quest みらい甲子園」のエントリーシートに合わせた記述に整える際に見えてきた課題や探究が不足している部分を深めていく。
- ・クラス内で「SDGs探究発表会」を行い、相互評価により本校で3月に行われる全校課題研究発表会の代表班を選ぶ。

社会の課題を解決するビジネスプランを提案しよう

兵庫県立伊丹北高等学校 地歴公民科 大畑 睦子

対象	1. 2年次	単元名	
科目	国際関係	特に設定していない	
時間	2単位	目標	
参考資料	・SDGsを手掛かりとして世界の課題を知り、それを自分たちの問題としてとらえ、解決に向けて必要なことは何かを考え、表現する ・グループワークにより解決のためのビジネスプランを考え提案するとともに、他のグループの提案について建設的な意見を述べる		
アイディアブック 全国ビジネスプランコンテスト(経産省)など			

期待できる学習効果

- ・世界にはいろいろな課題があることに気づき、自分の生活に引き付けて理解することができる
- ・課題解決に取り組む様々な活動を知り、解決には多面的多角的に考える必要があることを学ぶ
- ・設定した課題を解決するためのビジネスプランを提案することで、持続可能な社会の在り方を考える

授業内容

テーマ 社会の課題を解決するためのビジネスを提案する

取り組むうえでのポイント

- 1 社会の課題を考える際、手掛かりとしてSDGsのゴール及びターゲットを参考にする
- 2 「どこの、誰の、どんな課題」を解決するのかをしっかりと考えて設定する
- 3 解決をめざす課題の原因がどこにあるかを調べる
- 4 解決するためのビジネスを提案するのが目標なので、以下のいずれかを提案すること。
①モノを提案する ② サービスを提案する ③ プロジェクトを提案する
- 5 その提案で課題がどのように解決されるか、根拠となるデータと、そのように考えた理由をはっきり示すこと

スケジュール

SDGsとは何か(講義)・冊子を活用し、各自が解決したい課題を探す・チーム分け(2時間)
情報を集める・ビジネスを考える(5時間)
提案をまとめる(3時間)
発表準備(3時間)
発表会(1時間)
展示用ポスター作成(3時間)
振り返り(1時間)

社会の課題を解決するビジネスプランを提案しよう

兵庫県立伊丹北高等学校 地歴公民科 大畑 睦子

授業内容続き

今回生徒たちが設定したテーマ

- ①過疎化対策を考えるー淡路市空き家宿泊サービスの提案
- ②きれいな水を手に入れるために一途上国などきれいな水が手に入りにくい地域で汚れた水をろ過、または薬剤投与などできれいにする方法を考える
- ③親のストレスによる虐待を防ぐ手段を考える

子どもたちの反応・感想

・今回は水問題について調べましたが、調べていくうちにこれは水の問題だけではなく、ほかのSDGsの課題ともつながっていることが分かりました。1つの問題を解決するのに複数の課題に目を向け、同時にしなければならないことがたくさんあります。なので、私が思っていたほど単純なものではありませんでした。この複雑で難しい課題に真剣に向き合っていく必要があると改めて感じました。

・私は目標11の「住み続けられる街づくり」の解決策として、淡路市の過疎化について考えました。私が住んでいる伊丹市は過疎化が起こっていないため、過疎についてあまり深くは知らず考えたことはありませんでした。しかし、淡路市の過疎化について調べていく中で、空き家の増加が問題になっていることを知り、過疎化に伴ってより深刻な問題が起きていることが分かりました。グループで調べて解決策を提案したことで自分が住んでいる市以外の地域にも目を向けていこうと思いました。

・気になる課題として目標14「海の豊かさを守ろう」があります。私は毎年夏休みに、島根県の隠岐に家族で行き、海に潜るのですが、年々魚や貝の数が減っているのが目に見えるのです。海の豊かさを守り、魚や貝のたくさんいる隠岐に戻るよう、自分ができることをしていきたいです。

謎解きJ倶楽部の軌跡

学校名: 熊本県立熊本商業高等学校 名前: 吉田 真一

対象	3学年	単元名
科目	商品開発 電子商取引	年間通してすべての単元
時間	100	目標
参考資料	アイデアブック等	①地域を理解し、地域の良さを発信する ②イベント実施する。そのためにステージ班、展示班、バザー班に分かれる ③開発商品を実際に販売する 開発商品をコンテンツ化する

期待できる学習効果

- ・その1 地域理解と地域活性化の必要性を楽しみながら学ぶことができる
- ・その2 班別協働をおこなうため、協調、互いのコミュニケーション力、計画的に実行する力が身につくうえになにもないところから発想し、形になるまでに作り上げるゼロイチ体験ができる
- ・その3 年間を通して仲間と協力して取り組み、成果報告書と発表会を実施するため、まとめる力、わかりやすく伝える力が身についた

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

内容

- ①地域を知る 街歩き「水前寺かいわい100ヶ所めぐり」をアレンジして「水前寺かいわい10ヶ所めぐり」を実施
- ②商品開発班 地域の財産から開発する。シチュー・パン
- ③イベント企画運営 地域のイベントに参画する。実行委員として会議に参加。
9月2日3日「再建ジェーンズ邸オープン記念イベント」
- ④謎解き問題作成 知識ではなくひらめき・街歩き スタンプラリーとの連携
- ⑤第11回高校生ビジネスプラン・グランプリ応募
- ⑥成果報告パネル作成
- ⑦水前寺100ヶ所めぐりWebサイト作成のために分担して取材、データ収集
- ⑧第1回全国商業高校Webアプリコンテスト応募
- ⑨オリジナルグッズ作成
- ⑩「まんが四賢婦人物語」のコンテンツ化
- ⑪商標登録手続き調べ
- ⑫成果発表会準備

SDGsってなんだろう？

学校名：滋賀県立栗東高等学校 名前：江副正貴

対象	第3学年	単元名
科目	世界史B	SDGsってなんだろう？
時間	2時間	目標
参考資料	その1 SDGsの概観をつかむ。 その2 SDGsの具体的なターゲットや指標を学び、世界の現状を理解する。 その3 SDGsの達成に向けて自分たちにできることや、滋賀県独自の目標について考え、意見を交換する。	
・アイデアブック別冊 ・最新世界史図説 タペストリー(帝国書院)		

期待できる学習効果

- ・その1 現代世界の諸課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身につけ、課題に関わる概念を形成し、SDGsの意義や価値を理解しようとする。
- ・その2 主体的・協同的に取り組むとともに、互いの意見を取り入れ、新たな知見を獲得し、より良い社会を実現しようとする態度を養う。
- ・その3 よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいか考え、自己の在り方・生き方に生かす視点を得る。

授業内容(1時間目)

1. 1グループあたり4～6人で、6グループを作り、机を合わせる
2. 授業ワークシート(別資料として添付)を配付し、SDGsの概観を説明する
→ MDGs(ミレニアム開発目標)についても触れ、その達成が限定的であったことも説明する
3. SDGsの17の目標が、現在(2023年時点)達成されているかどうか、意見交換をおこなう
→ ワークシートに○・△・×を記入し、グループの代表者に板書してもらう
(○…世界中で達成されている △…日本では達成されている ×…達成されていない)
4. アイデアブック別冊を配付し、169のターゲット・指標について説明する
→ 例を参考に、ターゲットの中から3つを選択し、達成のために自分たちにできることを記入し、グループ内で意見交換をおこなう
5. 各グループの代表者に、上記4の内容をそれぞれ1つずつ発表してもらう
6. (早く終わったグループから、上記4と並行しておこなう)
滋賀県版SDGsであるMLGsの内容を説明し、どんな目標が掲げられているか予想して記入し、グループ内で意見交換をおこなう。
7. ワークシートを回収する

SDGsってなんだろう？

学校名：滋賀県立栗東高等学校 名前：江副正貴

授業内容(2時間目)

1. 前時に回収したワークシートの裏面に、MLGsアイコンを印刷して返却する
2. 前時のSDGsの学習と同じ内容を、MLGsでおこなう

授業の様子



SDGsってなんだろう？

学校名: 滋賀県立栗東高等学校 名前: 江副正貴

授業の様子



SDGsってなんだろう？

学校名: 滋賀県立栗東高等学校

名前: 江副正貴

授業の様子



SDGsってなんだろう？

学校名: 滋賀県立栗東高等学校 名前: 江副正貴

授業の様子



子どもたちの反応・感想

◎『未来を変える目標 SDGs アイデアブック 別冊「ターゲットと指標」』を見ながら、興味を持った SDGs のターゲットを3つ選び、達成のために自分たちに何ができるか考えよう。

	番号	ターゲット	自分たちにできること
例	16.1	すべての場所で、あらゆる形態の暴力と暴力関連の死亡率を大幅に減らす。	・友だちをたたいたり、蹴ったりしない。 ・SNSで他人の悪口を言わない。
①	5.1	あらゆる場所で、すべての女性、特に性的に被害を受けた女性と少女の差別をなくす。	・女性からという言葉を使わない。 ・女性をいじめない。 ・男女平等の考えを伝える。
②	4.6	2030年までに、すべての若者と大多数の成人が、読解力、計算力、デジタルリテラシーを身につける。	・小さい頃から、文字や数字に慣れる機会を設ける。
③	3.a.1	15歳以上の現在の喫煙率	・タバコを吸われても、吸わない。 ・タバコを吸わない！ 買わない！ 吸わせない！！

SDGsってなんだろう？

学校名: 滋賀県立栗東高等学校 名前: 江副正貴

子どもたちの反応・感想

◎『未来を変える目標 SDGs アイデアブック 別冊「ターゲットと指標」』を見ながら、興味を持ったSDGsのターゲットを3つ選び、達成のために自分たちに何ができるか考えよう。

	番号	ターゲット	自分たちにできること
例	16.1	すべての場所で、あらゆる形態の暴力と暴力関連の死亡率を大幅に減らす。	・ 友だちをたたいたり、蹴ったりしない。 ・ SNSで他人の悪口を言わない。
①	3.6	2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者の数を半分に減らす。	・ 飲酒運転をしない。 ・ 目立たない服やくつを、着用する。
②	14.1	2025年までに、海洋汚染物や富栄養化を含め、特に陸上活動からの汚染による、あらゆる種類の海洋汚染を防止大幅に減らす。	・ 海にゴミ捨てをしない。 ・ 食器用洗剤などに気をつける。
③	12.3	2030年までに、小売、消費者レベルにおける世界全体の一人あたり食品廃棄を半分に、収獲後の損失を含めて生産における食品ロスを減らす。	・ スーパーなどでは奥からとらず、手前の日から近いものから、取る。

◎『未来を変える目標 SDGs アイデアブック 別冊「ターゲットと指標」』を見ながら、興味を持ったSDGsのターゲットを3つ選び、達成のために自分たちに何ができるか考えよう。

	番号	ターゲット	自分たちにできること
例	16.1	すべての場所で、あらゆる形態の暴力と暴力関連の死亡率を大幅に減らす。	・ 友だちをたたいたり、蹴ったりしない。 ・ SNSで他人の悪口を言わない。
①	14.6	小規模で伝統的漁法の漁業者が、海洋資源を利用し市場に参入できるようにする。	・ 実際はその漁業をしているところを見たり、して直で感じる。 ・ 歴史を大切にすること。
②	11.6	大気環境や、自治体レベルによる廃棄物の管理に注意すること。都市の一人あたりの環境上の影響を小さくする。	・ ゴミ拾いなどをやる。 ・ 分別、リサイクル。 ・ 地域の清掃活動に参加する。
③	10.2	年齢、性別、障害などにかかわらず、全ての人々に社会的、経済的、政治的に排除されない参画ができることを手助けし、その参画を促進する。	・ 見た目やウケで差別をしない。 ・ 全員に同じ接し方をすること。

地球的課題と私たち

学校名:千葉県立東葛飾高校定時制 名前:石川 航平

対象 定時4年

科目 地理研究

時間 2コマ×4

参考資料

アイデアブック等

単元名

地球的課題と私たち

目標

- その1 社会に出ていく上でどのような地理的な課題があるか知る。
- その2 行政、企業、個人がどのように行動変容を起こしていくか、考える
- その3 先進的な取り組み事例から、未来に対して明るい希望も見出す。

期待できる学習効果

2030年までにどのような取り組みを行っていく必要があるか、地理的にも理解する。

授業内容

- ①映像教材として『NHK 2030 未来への分岐点シリーズ』を使用。
- ②映像を視聴する前に、テーマとなる課題について学習。アイデアブックの「考えよう」も活用し、映像を見る前後で、自分の考えがどのように深まったかOR広がったか比較する。
- ③映像資料は比較的暗い未来を描いているため、生徒によっては未来に悲観的になってしまうこともある。そのため、再度アイデアブックを活用し、どのような取り組みがあって、地域社会や国際社会が動いているのか、確認をする。

国際経済のまとめ

学校名: 山形県立米沢東高等学校 名前: 小林智子

対象	高校3年	単元名
科目	現代社会	国際経済のまとめ
時間	2時間(授業)	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 国際経済の単元で学んだことを活用し理解を深める。 その2 より良い社会の実現に向けたパートナーを増やす。 その3 共感者を得るための表現力を高める。

期待できる学習効果

- ・SDGsに対する理解を深め、SDGsを自分事にする
- ・国際社会の問題や日本国内での問題について理解し、課題解決にむけた提案を行う
- ・様々な価値観に気づける

授業内容

対象テーマを指定し、各自が興味関心をもったテーマを選択し探究学習を行った。

【対象テーマ】

- ①歴史的円安(ドル高)の背景と影響
- ②絶対的貧困と相対的貧困、日本の実態と対策
- ③フェアトレード・エシカル消費で世界を変える
- ④エコツーリズム
- ⑤サステナブルファッション(環境省HP)
- ⑥SDGsに関すること
- ⑦その他「国際経済」に関すること

レポート(GoogleスライドA4サイズ)を作成⇒グループ発表⇒代表者発表

自分自身の興味・関心で選択したり、進学後の学びと関連付けてテーマを設定する生徒も多かった。参考文献として、『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を全員に配付し、テーマを設定する際や世界や日本の取り組みについて情報収集活動で活用した。また、教科書で取り上げられているグラミン銀行なども紹介されており、関連付けながら学びを広げる機会になった。レポートにまとめる時間が必要であったが、実際は家庭学習としてレポート作成を自宅等で行った時間が多い。重複したテーマは、貧困問題であった。日本の貧困に目を向けさせるため、教員・保育士・医療・福祉といった分野に進学する生徒に勧めたためである。発表会では、自分と異なるテーマを設定して作成したレポートを発表に関心を持ちながらお互いに質疑応答する姿も見られた。

国際経済のまとめ

学校名: 山形県立米沢東高等学校 名前: 小林智子

授業内容2

SDGs理解促進ツール「ひとこと多い貼り紙」でSDGsポスターを作ろう

参考: JANIC(ジャニック)ホームページ<https://www.janic.org/world/sdgstool/>

JANIC(ジャニック)は、NGOの力を最大化することで、世界の社会課題解決の促進を目指す、ネットワークNGOです。

アイデアブックを参考に、SDGsについて理解を深め、校内外を想定して世界や日本の現状を訴えながら人々の行動を変えるポスターを制作した。

子どもたちの反応・感想

上記1番目のレポート発表については、相対的貧困・絶対的貧困に関する問題が2023年1月実施の共通テストで出題された。レポートの発表活動を通して、幅広いテーマについて知り、考える機会になった。教師が教えるよりも生徒が教え合うことで、記憶にも残りやすいようだ。また、上記2番目のひとこと多い貼り紙についてのポスター制作では、発想力を鍛える機会になった。いずれにしても、考える土台としての情報が必要であり、SDGsを他人事にせず自分事にしていくためのアイデアブックの存在は大きいと言える。SDGsの目標を理解することも大事だが、実際にどのような活動があり、自分にもできることはないかを考えさせる上でなくてはならない教材として今後も活用していきたい。

SDGsと学校の未来

学校名:愛知総合工科高等学校 名前:川田大介

対象	1年	単元名
科目	工業	SDGs
時間	4時間	目標
参考資料	知識・技能 目標とターゲットをまとめ、要約することができる 思考・判断・表現 目標とターゲットを理解し、学校で取り組むことができる アイデアを記述し、説明できる。 主体的に学習に取り組む態度 身近な未来を変える方法について関心を持ち、タブレットを用いて意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
アイデアブック SDGsカード		

期待できる学習効果

- ・コミュニケーション力 お互いが考えていることを伝え、わかり合い、概念を共有する能力
- ・SRストーリー展開力 過去→現在→未来の推移を、やり方と結果を対比したストーリーで説明する能力
- ・ロジカルシンキング力 ものごとの因果関係を明確化し、つながりをもって考える能力

授業内容

これからの時代に求められる人材像とは、企業の将来へのさらなる持続的成長に向けて、自分を取り巻く環境を敏感に感じ取り、解決すべき問題・課題を自ら発見し、解決へ向けて自ら職場をリーディングできる人材である。新入試では「論理的思考力・判断力・表現力等を適切に評価する」、「複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立案し、さらにそれを表現するプロセスを評価する」とあるように自分の考えを組立、表現する力が求められている。今、予想されている未来を把握し、社会・未来・海外・他者視点とステージを変え、ゼロから1を生む経験を繰り返しながら自らの発案を形にし、肯定的なフィードバックを受けることで生徒自身の主体的な意欲創出の学びの場を提供する。具体的には、1年の工業技術基礎で、SDGsの目標とターゲットを理解し、多様な問題に直面しても対応でき、心理的惰性(自分の経験や常識に縛られる)を打破し、従来の発想に囚われないアイデアを創出するチームダイナミズムが生み出された探究型学習を行う。

SDGsと学校の未来

学校名:愛知総合工科高等学校 名前:川田大介

授業内容2

アイスブレイク

グループになり、SDGsカードを机上にカルタのようにバラバラに並べ、最近のニュースや新聞の記事を思い出しながら話し合う。

目標の提示

校内をフィールドワークして関連のある目標を1つ選び、発表する。

導入

SDGsアイデアブックの目標、ターゲット、指標を確認する。

展開

校内をフィールドワークして、気になったところをメモする。
教室に戻り、グループで情報共有してプリントにまとめる。

まとめ

各グループのまとめをクラス全体で発表し、多様な視点や考え方を理解する。

子どもたちの反応・感想

- ・普段あまり意識せずに使っているモノ(ストローやビニル袋)でも、未来のために持続可能性を意識してごみを減らしていくことがたいせつだ。
- ・グループと自分の間で、同じターゲットに対して多様な考え方を共有できた。
- ・この時代でできることを真剣に考えて取り組んでいかなければいけないと感じた。



新屋高校SDGs授業実践

学校名: 秋田県立新屋高等学校 名前: 阿部大輔

対象	3年	単元名
科目	生物	生物 第5編 第4章 生態系と生物多様性 など
時間	合計 10時間	目標
参考資料	SDGsアイデアブック 「ターゲットと指標」 SDGsボードゲーム等	(1) 生物多様性に関する記事をピックアップし、自身の考えをまとめよう！ (2) 脱炭素化に向けたアクションプランを作成し、宣言しよう！ (3) 秋田県におけるローカルSDGsの事例を調査し、ボードゲーム問題をつくろう！ (4) SDGsに関連した仮想企業を設立し、そのホームページを作成しよう！

期待できる学習効果

- (1) 学習内容と日常生活のつながりを実感し、自身の考えを表現することができる。
- (2) 脱炭素化に向けた事例を調査しながら学びを深め、自身の行動変容に繋げることができる。
- (3) 秋田県内におけるSDGsの取組事例について把握し、高校卒業後についてどのように関わるか等考察を深めることができる。
- (4) SDGsの視点での「提案力・企画力」を育むと同時に、デザインスキルの向上に繋げる。

授業内容

(1) 生物多様性

生物多様性に関する新聞記事を各自3つピックアップし、JamBoardに整理して提出。

* 使用した新聞は毎日新聞／朝日新聞／読売新聞／秋田さきがけ新聞

(2) 脱炭素化

① 脱炭素化に関連する事例をGoogleスライドに整理し、グループごとにプレゼンを実施。

② プレゼン後、脱炭素化に向けたアクションプランをグループ内で宣言する。

* 研究授業でも実施

(3) ローカルSDGs(秋田県版ボードゲームの問題作成)

① SDGsボードゲームやBeyond SDGs 人生ゲームを各クラスでプレイ。

② 秋田県内におけるローカルSDGsの事例を調査(秋田県SDGsパートナーを参照)

③ SDGsに関する課題とその解決方法を整理し、Googleフォームに入力

→SDGsボードゲーム秋田県版へ繋げる予定。(R5年度中の完成を目指す)

(4) 仮想企業の起業

① SDGsに関連するテーマで仮想企業を思案する。

② 仮想企業におけるミッションを面談しながら、決定する。

③ ミッションに基づき、仮想企業における取組を思案し、Googleサイトを用いてHPを作成する。

→今後のアントレプレナーシップ教育に繋げる予定。

新屋高校SDGs授業実践

学校名: 秋田県立新屋高等学校 名前: 阿部大輔

授業内容2

(1) 生物多様性の記事を整理



(2) 脱炭素化事例に関してスライド制作



(4) 仮想企業のHP作成事例



(3) ①SDGsボードゲーム



(3) ②Beyond SDGs 人生ゲーム



子どもたちの反応・感想

(1)生物多様性

- ・新聞記事を要約し、SDGsとの関連を見つけ、自分の力で発表することができた。
- ・環境問題の取組がたくさんありもっと知りたいと思った。特にハタハタの記事が印象深いです。

(2)脱炭素化

- ・脱炭素化に向けては様々なプランがあるが個人で取り組むよりもみんなで協力したほうが早いと思った。
- ・クリーンエネルギーについて詳しく理解できた。

(3)ローカルSDGs(秋田県版ボードゲームの問題作成)

- ・秋田県で行われたフードドライブやエコキャップ運動はもっと色々なところで広まればいいと思った。
- ・自分たちと同じ年の高校生が環境を変えられるものを生み出したと知り、自分でもなにかできそうな可能性を感じた。また、高校生ができるのであれば規模を大きくして機関や企業もできるのではないかと考えた。
- ・SDGsについて考える機会が年々増えて、身の回りにある改善できることや、考え直さなければならないことがたくさんあると感じました。秋田県の取り組みなどが分かって、私も日々SDGsについて考えながら生活していきたいです。

(4)仮想企業の起業

- ・HPを作るのは難しかったけど、比較的簡単に良いデザインのものを作り上げることができて満足。
- ・環境貢献と利益を結びつけるのに苦労したが、そのような視点を持つ大切さを理解できた。

SDGs講習会

～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

学校名：別府溝部学園高等学校 名前：松本 明美

対象	高校1年～3年	単元名
科目	特別活動	SDGs講習会
時間	2時間	目標
参考資料	アイデアブック等 講師が作成した資料	近年、ニュースや新聞等でよく目や耳にする SDGs。しかし、私達の生活にどのように関係する のか、また、具体的にどのように取り組めば良い のかがあまりわかっていません。行動の 10 年と言われるこれからの時代を生き 抜く高校生として SDGs の内容や私達の生活と の関わりを知り、高校生の私たちにできることを 考えよう！

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの本来の意味を知り自分たちの活動に生かす
- ・その2 学校生活や日常生活等でSDGsに取り組む
- ・その3 SDGsの身近さを知る

授業内容(第1部)

大分県環境教育アドバイザーであり立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授の須藤智徳氏をお招きしオンライン形式でSDGs講習会を行った。須藤氏はSDGsの立ち上げにも携わっておりSDGsのスペシャリストである。「SDGsの本来の意味」というテーマで高校生の活動につながるヒントを教えていただいた。

SDGs講習会

～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

学校名：別府溝部学園高等学校 名前：松本 明美

授業内容(第2部)

大分県環境教育アドバイザーでありSDGsde地方創生カードゲームのファシリテーターである松山真弓氏をお招きしSDGsde地方創生カードゲームを通してSDGs達成のために今何ができるのかそして、どのような取り組みが必要なのかを高校生にもわかるように教えていただきました。

現代市場とマーケティング(ソーシャルマーケティングなど)

学校名:東京都立王子総合高等学校 名前:幸田佳代

対象	高校2・3年次	単元名	現代市場とマーケティング(ソーシャルマーケティングなど)
科目	マーケティング	目標	その1 アイディアの創出方法になれる その2 グループの仲を深める・チームビルディング その3 ポジティブに意見を出し合い、協力する
時間	2時間		
参考資料	・アイディアブック ・The SDGs アクション カードゲーム クロス		

期待できる学習効果

- ・その1 発想力を鍛える
- ・その2 グループで協力する力を養う
- ・その3 プレゼン能力を鍛える

授業内容

「アイディアブック」からSDGsのターゲットを確認し、どのようなアイディアがあるのか参考にする。

金沢工業大学の「The SDGs アクション カードゲーム クロス」を使って、社会課題の解決方法を考える。

その解決方法は、どのターゲットを解決することになるのか、「ターゲットと指標」から発表できるようにする。必要があれば、いったん決めた解決方法を、一部変更する。

今考えなくてはならない事・今できる事

学校名：埼玉県立大宮武蔵野高等学校 名前：池田 弘太郎

対象	高校2年生	単元名
科目	LHR	海のゴミ(汚染状況)について
時間	1時間	目標
参考資料	別紙資料(プリント)等	その1 海の汚染具合の現状を知る その2 今後どうしなければならないか意見を交換する その3 今すぐできる事は何か考え本日より実践する

期待できる学習効果

- ・その1 身の回りに起きていることを知る
- ・その2 今すぐ改善できることを探る
- ・その3 自分たちで決めた個人・クラスとして取り組むことを実践する

授業内容

- ①埼玉県という環境から現在の海の汚染状況がわかりにくい。そこでまずは自分の想像で海の汚れ具合はどうなっているか考え、周りの生徒と意見交換を行う。
- ②各自資料を利用して現状を知る。またそこから5年後、10年後・・・2050年には海はどんな状況になっているかを考える
- ③では少なくとも今より海が汚れないようにするにはどうしたらよいか、何ができるかを考え周りの人と意見を交換する
- ④担任が生徒の意見を聞き、最後に意見をまとめ今すぐできる事、今からできることをクラスで共有する。

今考えなくてはならない事・今できる事

学校名：埼玉県立大宮武蔵野高等学校 名前：池田 弘太郎

取り組み中の子どもたちの様子



学習前・学習後の考え方の変化

学習前

- ・ゴミが落ちていても気にしていなかった
- ・関心がなかった
- ・少なからしいと思い、ゴミを混ぜていた
- ・今までSDGsについて知らなかった
- ・ペットボトルの分別が面倒だった

学習後

- ・世界が一体になって解決して欲しい
- ・ペットボトルのラベルを剥がし、分別を行う
- ・極力ゴミを出さないようにする
- ・ゴミを拾う(自分のゴミでなくも拾う)
- ・とにかくゴミを分別する(資源を大事にする)
- ・マイボトルを使う
- ・ごみ問題に関心を持つことが大事だと思った
- ・人間だけではなく動物にも影響を与えていると思った
- ・絶対にポイ捨てをしない
- ・レジ袋など本当に気必要じゃない限りもらわない
- ・普段からのちょっとした気遣いが大事

SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

学校名:福岡県立筑紫学校

名前:藤井 香奈

対象	2学年希望生徒	単元名	SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト
科目	放課後の活動	目標	その1 学びたい学問分野とSDGsのつながりを考える活動を通して、進路探究を深める。 その2 SDGsターゲットの英語原文から日本語訳を考える活動を通して、英語学習への意欲を高める。 その3 身近な生活からSDGsの課題や解決に向けた取り組みを探すことで、SDGsの視点から社会と学問について考える。
時間	放課後・週2回		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsターゲットアイコン日本語を自分で考えることでSDGsの内容を自分事として主体的に考えることができる。
- ・その2 学びたい学問分野に関連するSDGsターゲットを自分で考えて選択したことにより、「社会」「学問」「自分」の関連性に気付くことができる。
- ・その3 SDGsターゲットの英語原文から日本語訳を考える活動で、英語原文と翻訳とのニュアンスの違いに気づき、英語学習の必要性を気付くことができる。

授業内容

①探究ターゲットを決める

- ・学びたい学問分野とSDGsのつながりを考える。
- ・学びたい学問分野を記入する。
- ・学問分野を選んだ理由を記入する。
- ・学問とつながりがありそうなSDGsをつなげてみる。
- ・学問と関係するSDGsを結んだ理由を記入する。

②英語の原文を読む

- ・個人でターゲットの原文を読み、訳をする。
- ・自分の訳と翻訳を比べて、訳やニュアンスの違いを探す。
- ・3人グループを作り、共有:生徒が読んだ3つのターゲット内、1つを共有する
 - 1.自分の訳と翻訳の違いを感じたターゲット
 - 2.最も興味のあるターゲット

③社会問題を知る

- ・ターゲットに関連する・興味があるものを持ち寄り、グループでその紹介をしていく。
- ・視聴者は以下の観点に基づき、コメントを付箋に書き、発表後に発表者に渡す。
→観点:共通点(SDGs・学問)・共感(興味・関心)・新たな学び

④キャッチコピーを考える

- 参考資料:博報堂 SDGsコラボレーションブック2019 NPOのための、キャッチコピーの作り方
- ・キャッチコピーを考える(考えるポイント ①ターゲット層 ②視点 ③関連付けたい社会問題)

SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

学校名:福岡県立筑紫学校

名前:藤井 香奈

授業内容2

⑤SDGsターゲットアイコン日本版 発表会準備(発表はKP法)

- ・KP法でのプレゼンテーション方法を教員によるデモンストレーションで説明

- ・発表内容

1.ターゲットの紹介・キャッチコピー設定理由

選択理由(進路のつながりも含めて)、原文・原文訳、キャッチコピーのターゲット層や考えた視点、

関連付けた社会問題

2.キャッチコピーの内容発表

3.キャッチコピー作成を振り返って

工夫した点、難しかった点、感想

⑥SDGsターゲットアイコン日本版 発表会

発表方法

4人程度のグループ、KP法を利用

聞き手のコメントシート

1.興味・関心を引いたもの、もっと知りたいと思った内容

2.他の人の発表で自分も取り入れたいと思った考え方・内容

3.最終報告会を通しての気づきや新たな発見

子どもたちの反応・感想

今日の活動を通して、同じ課題が与えられていても話し合っているメンバーやその時自分が重要視していることなどによって考え方は様々であるということに気づいた。友達の意見を聞いて自分の視野にはなかったことにハッとさせられることが多くてSDGSについてより理解を深められた。

改めて考えてみると、SDGsのゴールはどれもつながっているなと感じました。また、緊急度や分類において同じグループ内でも捉え方が変わってきて面白かったです。つながりや捉え方をうまくまとめながら一つの意見に仕上げていくのがとても難しく、勉強になりました。

今後さまざまな場面で話し合いの活動があると思いますが、色々な人のさまざまな角度からの意見を聞きつつ、まとめていく力をつけていきたいです。

また、SDGsについて分かったつながりなどを総合的な探究の時間の活動にも生かしていきたいと思っています。



桐朋女子×SDGsプロジェクト

学校名: 桐朋女子中・高等学校 名前: 吉崎亜由美

対象	高等学校3年	単元名	桐朋女子×SDGsプロジェクト
科目	進路決定者講座	目標	その1 学内外の社会課題に目を向け、その解決に向けて行動する その2 チームでプロジェクトのゴールとその価値を考え、活動計画を立てる その3 学習履歴図によるふりかえりを行い、次の行動計画に反映させる
時間	8時間		
参考資料	書籍『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』		

期待できる学習効果

- ・その1 学んだ知識や技能を活用しながら、社会課題の解決に向けて、行動することができる。
- ・その2 大学での学びにつながるプロジェクト学習を自ら企画することができる。
- ・その3 学内外の人物とゴールに向けて協働することで、コミュニケーション力を身につけることができる。

授業内容

本校では、高校3年生の内100名近くが12月の時点で大学の進路を決定します。その生徒対象に行った「桐朋女子×SDGsプロジェクト」の今年度の受講生は78名です。大人数なので教室に入りきらず、図書館を貸し切って、授業を行いました。1回目の授業では、6人ずつの班、計13班に分かれて書籍『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を読んだり、過去の先輩の活動実績を参考にしたりしながら、学内外の社会課題に目を向けました。その中から、各班ごとに問いを立て、自らゴールを決め、自分にとって、そして周りの人や社会にとってのプロジェクトの価値を考え、PBL(Project Based Learning)の企画書を作成しました。11のプロジェクトの内容は、以下の通りです。

- 1班「私たちの防災対策はたりているのか？ポスター制作」
- 2班「仙川の魅力とは？マルチマップをつくる」
- 3班「貧困国の人々にできることはなにか？ Square Knitをつくる」
- 4班「パン屋は食品ロス削減のためにどのようなことをしているのか？フードロスポスターの制作」
- 5班「食品ロスを減らすためには何ができるか？食品ロス解消レシピ」
- 7班「未来の桐朋女子をよくするためには？模擬店企画書の作成」
- 8班「なぜ私たちは学校で十分な防犯教育を受けないのか？提案書の作成」
- 6・9班「災害が起きた時に私たちはどのように役に立てるのか？ちくちくボランティア」
- 10班「誰でも安全・安心に暮らせる街づくりとは？交通安全&バリアフリーマップをつくる」
- 11・12班「仙川の町にどのくらいゴミが落ちているのか？地域清掃」
- 13班「桐朋女子でよりよい環境で過ごすためには？校内清掃」

2回目の授業では、行動計画を立て、3回目の授業では行動計画に沿ってアクションを起こしました。コロナ禍で入学式やさまざまな学校行事もできず、経験値が少ない生徒たちにとって、みんなで協力しながら、プロジェクト学習を通してアクションを起こすことは困難を伴ったと思います。そのような中、最初はとまどいながらも、自ら立てたゴールに向かって協力しながら行動している姿がとても印象的でした。

桐朋女子×SDGsプロジェクト

学校名：桐朋女子中・高等学校 名前：吉崎亜由美

子どもたちの反応・感想

1班 私たちの防犯対策はたりているのか？避難時に心がける「おかしもち」に関するポスターと防災袋のイラストを作成し、校内に貼りました。

桐朋生に向けて避難の大切さを気づかせられるようなポスターを作成できた。

4班 パン屋は食品ロス削減のためにどのようなことをしているのか？購買のパン屋にインタビューし、ポスターを作り校内に掲示しました。

食品ロスの現状と削減方法を学ぶことができてよかった。購買部という身近な存在から世界の問題を知ってもらいきっかけになれば嬉しい。身近な食品ロスについて知り、食品のことを掘り下げることで食品の大切を改めて実感した。食品を破棄しないことだけでなく、食べられる量を買うことが大切だと感じた。

5班 食品ロスを減らすためには何ができるか？余った食品を使用して簡単に作れる料理のレシピ案を考えました。

用意する食材や調理手順が簡単なので、ぜひ一度作ってみてほしい。生活に役立てるレシピを調べられてよかった。また食品ロスについてより知ることができた。家で余った食材があれば自分でも活用してみたいと思った。どれも簡単に作れるレシピを集めたので、ぜひ作ってみてほしいです。自分でもためになることが多かったのも、とてもいい機会になりました。

6・9班 災害が起きた時に私たちはどのように役に立てるのか？水害などで被害を受けた地域に雑巾を届けることを目標に、古布を集め、雑巾を作り、ADRAジャパン「ちくちくボランティア」へ雑巾130枚を送りました。雑巾作成を通して被災地について考えることができました。現地に向かわなくても、私たちにできることがあるとわかりました。今までは、どこかの地域で災害が起きた時に自分のできることはないと思っていましたが、この活動を通して少し社会に貢献できたと思います。これまでニュースなどで状況を知るだけの傍観者で終わることがほとんどだったが、雑巾を送ることで少しでも力になれたと思う。多くの雑巾を作ることができ、みんなと協力して目標を達成することができたと感じた。被災地に実際に足を運ばなくても支援をする方法があるのだと知りました。このプロジェクトを通して見えない場所にいる誰かのために行動する事を学べました。

2・10班 生徒と先生に向けて、様々な視点から見た仙川駅周辺の情報をポスターにまとめました。

今回のプロジェクトでは、短時間でグループ全員が協力し、マップという形で計画を実現でき、仙川の地形もよく知ることが出来た。皆で情報を集めて、発信することが出来ていい経験が出来ました。今後も皆で話し合って活動することがあると思うので、活かせればと思う。みんなで話し合っ一つのプロジェクトができていい経験になった。調べたり話し合ったりする内に、普段使っている通学路に意外と危ない場所があること等がわかって仙川の街への理解が深まった。今回はテーマ決めの段階から班全員で意見を出し合い納得のいく成果を挙げられた。今後大学生になったら意見を出し合う授業も多いと思うのでいい機会になったと思う。今回のプロジェクトを通して、仙川について詳しく知ることが出来たので、より暮らしやすい生活が出来そう。自分たちで交通安全について考えることで安心・安全の理解を深めることができた。また、たくさんの人々にこのマップを用いて仙川駅周辺の安全を学んでほしい。

11・12班 仙川にはどれくらいのごみがあるのか？仙川の街をきれいで住みやすい街にする！

調布市環境政策課に問い合わせ、トングなどの道具を貸していただいた。タバコやマスクが多く落ちていた。缶も多く、中身も入ったままのものが多かった。私たちの活動を見て、ごみを捨てる人が減ればいいと感じた。ゴミが落ちていないきれいなところと沢山ポイ捨てされている場所が分かれていた。沢山ごみが捨てられているから自分もいいかという気持ちでポイ捨てする人も多いと思うので今回のごみ拾いという活動には大きな意味があると思い、やりがいを感じた。はじめは、あまりごみが落ちていないと感じていたが茂みなどのなかなか目のつかない場所に多くのごみが落ちていた。また、同じ場所に同じようなごみが落ちていたことから習慣的にごみを捨てている人がいるのではないかと考えられた。渋谷や都会に比べたら落ちているゴミは少なかったが、端にゴミを捨てることが多いことが分かった。住みやすく、少しは登校する時に気持ちよく登校できるようになったのではないかなと思った。

避難時のお約束

お かな し も ち
さ け や ど か
ない ない べ ら ぞ づ
ない ない ない ない かない



万が一に備えよう 防災袋 セット



500ml ペットボトル
水 3本



タオル 3枚



マスク



歯ブラシ



ポケット
ティッシュ



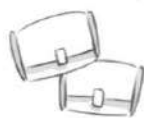
予備の
コンタクト用品



メガネ



下着 3日分



生理用品



カードゲーム



甘いもの



アイマスク
耳栓



くつ下



冷えピタ



ウエット
ティッシュ



*出し
ティーパック





Food Lossを減らす

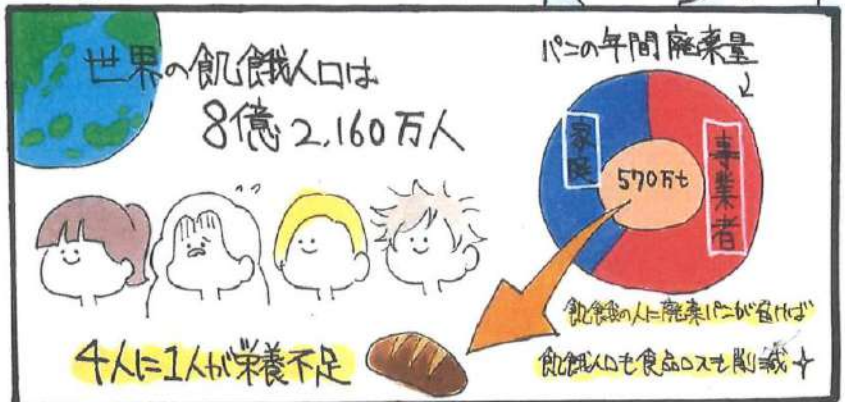
まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物を「食品ロス（フードロス）」といいます。食べ物を捨ててしまうのはもったいないだけでなく地球環境にも悪影響が出てしまいます...
これからの未来に向けて、食品ロスを減らすための様々な取り組みが行われているのが現状です。



販売のパン屋さんにインタビュー

ここでは相模の現状でも売っているパンについて取り上げます!!

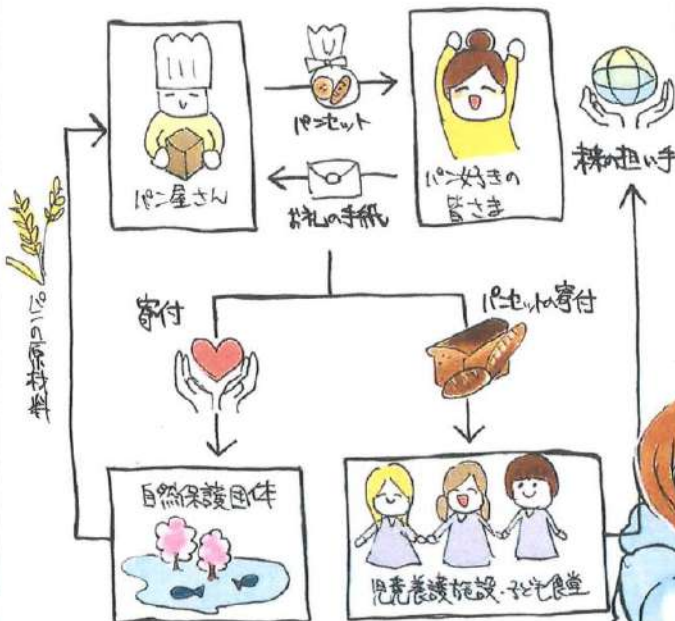
- Q1. 日にどれくらい売れ残るのか
→ 日によって全然違う。
多い時には半割程度残ることもある
- Q2. 売れ残ったパンはどうしているのか
→ お店に持ち帰って再販
- Q3. 日によって入荷数を変えているのか
→ 午前授業のみの日は少なめにしている



食品ロスを減らす取り組み

rebake (リベイク)

— ロスパンを安い値段でお取寄せ —



リベイク
rebakeは食品ロスを減らし、食料やそれを生み出す土地が持続的に守られる社会に取組んでいます。

この取り組みのおかげでロスパンの削減に成功!!!

削減量がい

300tを超えた

お礼のすてきな重さです



✕ 約10両分

(鉄道車両)



パンをお取寄せして食品ロス削減に貢献しよう



簡単につくれる 食品ロスレシピ!!

ロールキャベツ 	材料 ・キャベツの葉 2枚 ・冷凍ぎょうざ 4個 ・水 200 mL ・鶏がらスープの素 小さじ1	作り方 ① キャベツの葉をみいで スジを薄くそぐ。 ② 洗って耐熱袋でレンジ600w 1分加熱する。 ③ ぎょうざを2個、スジを手前にして置く。 ④ 手前から巻き、途中で左右を織り込んで巻いて楊枝で止める。 ⑤ タッパにロールキャベツ、鶏がらスープの素、水を入れ、レンジ600w 4分加熱し、反して4分加熱する。
きゅうりのスープ 	・きゅうり 1/2本 ・鶏がらスープの素 大さじ1 ・水 600 cc ・乾燥わかめ 1つまみ ・白ゴマ 少々	① きゅうりを拍子切りする。 ② 鍋に水と鶏がらスープの素を入れる。 ③ 沸騰したら きゅうりとわかめを入れる。 ④ わかめが戻ったらゴマをちらせてできあがり!!
もやしの佃煮 	・もやし 1袋 ・醤油 50 mL ・削り節 4g~ ・砂糖 大さじ5 ・しょうがチューブ 1 cm	① 鍋にちやし、削り節、砂糖を入れて中火で炒める。水分を飛ばすようによく炒める。 ② 水気がなくなったら、醤油、しょうがチューブを加え、さらに水っぽさがなくなるまで炒めて完成!! ※ 焦がさないように注意!
牛乳プリン 	・牛乳 400 mL ・砂糖 25 g ・ゼラチン 5 g ・水 大さじ2	① ホウルに水とゼラチンを入れ、ふやかしておく。 ② 牛乳・砂糖を弱火にかけ、なるべく泡立たないように混ぜる。 ③ ①を加え、よく混ぜる。 ④ ゼラチンと砂糖が完全に溶けきったら、お好みの容器に入れる。 ⑤ しっかり固まるまで冷やしたら完成。
みかんジャム 	・みかん(中) 8個(700g) ・砂糖 300g ・レモン果汁 大さじ2 ・水 3カップ	① みかんはよく洗い、皮をむく。 ② 皮は3分ほどゆでて水に取る。 ③ 皮と実を細かく切る。 ④ 鍋に③と水を入れ火にかける。 ⑤ 沸騰したら砂糖、レモン汁を加え、ふたをして弱火で40分煮る。

13班 校内清掃



11・12班地域清掃



6・9班
ちくちくボランティア



自分たちにできることは何だろう

学校名:福島県立平支援学校 名前:稲田健実

授業内容2

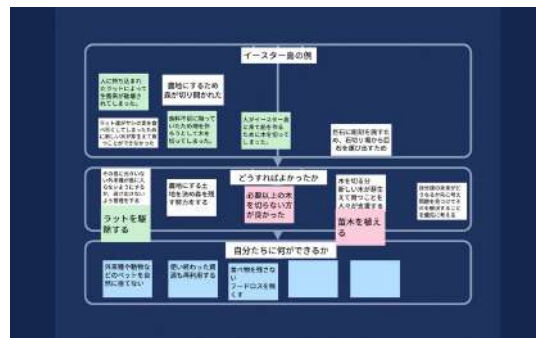
3 どうすればよかったか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。

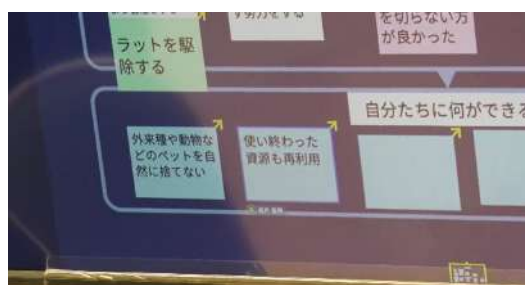


4 自分たちに何ができるか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。
- ・共有ノートを使う。
- ・対話しながら協働して進める。



子どもたちの反応・感想



☆生徒の感想

- ・シンキングツールを使うとまとめやすかった。
- ・自分のこととして考えることができた。
- ・根拠をもって、自分の考えをまとめることができた。

SDGs ～今、自分たちにできること～

学校名:出雲養護学校 雲南分教室 名前:会下由貴子

対象	高等部1年	単元名	SDGs ～今、自分たちにできること～
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGs17の目標を知り、社会に対する課題意識をもつ。 その2 SDGsの17の目標の中から、自分たちが興味をもった目標を選んで調査し、課題を考えることができる。 その3 課題を調査をした結果から、今、自分たちにできることを考え、実践しようとする。
時間	20		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsへの理解を深め、社会に対する課題意識をもつことができる。
- ・その2 自分たちが興味をもったSDGsの目標を選択し、身近な問題に置き換えて調査をすることで、主体的に学習を進めていくことができる。
- ・その3 調査したことやまとめたことを校内の友達や地域の方々に発表し、自分たちの意見やアイデアを発信する場を設けることで、実践したことの達成感を味わうことができる。

授業内容

- * 全学年での学習(SDGs・福祉学習)と学級での学習を分けて取り組んだ。
- ・分教室全体でSDGsの目標について理解を深め、学級で目標3「すべての人に健康と福祉を」を選択した。
- ・学級では、福祉について着目し、「老若男女に優しい町づくり」について思案した。
- 町のスーパーへ調査に行き、便利で暮らしやすい工夫を発見した。
- 課題を見つけたり「もっとこうなったらいいな」を思案した。
- 「今、自分たちにできること」の意見を出し合ってまとめた。



子どもたちの反応・感想

- * スーパーの敷地内には、みんなが集う便利で暮らしやすい工夫がたくさん！
- ・ATM(ゆうちょ、JA、合同銀行など)も複数ある。・100円均一もあり、電子マネーの利用ができる。
- ・バリアフリーで老若男女が安心して利用ができる。ピクトグラムで情報が一目でわかる。
- ・点字表記や障がい者駐車場も完備されているなど、様々な工夫に気づくことができた。
- * 「あったらいいな」と思うものは何かな？
- ・「店内にも点字ブロックで誘導があればいいな」「自販機がユニバーサルデザインになるといいな」「手押し車のような荷物運びがあるといいな」などの意見がでた。
- * 自分にできることは何かな？
- ・「簡単な手話ができるといいな。」「視覚障がい者のサポートの仕方が知りたいな。」「高齢者の方が困っていたら声がかけてあげられるようになりたいな。」
- などのつぶやきが聞かれ、簡単な手話講座や視覚障がい者の体験等を行った。



SDGs～島根県と広島県の取り組みを知ろう～

学校名:出雲養護学校 雲南分教室 名前:阿部雄大

対象	高等部2年	単元名	SDGs～島根県と広島県の取り組みを知ろう～
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGsについて知り、目標の内容を理解する。 その2 身近な地域(雲南市、出雲市)と修学旅行で訪れる広島県のSDGsの取り組みを調べる。 その3 身近な地域(雲南市、出雲市)と広島県のSDGsの取り組みを比較し、自分たちにできることは何かを考える。
時間	20		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsについて詳しく知ることができる。
- ・その2 身近な地域と修学旅行で訪れる広島県のSDGsの取り組みについて調べることで、共通している取り組みや独自の取り組みに気づくことができる。
- ・その3 自分たちで調べたことをまとめたり、発表したりすることで、達成感を味わうことができ、今後の生活に活かす意欲につながる。

授業内容

○全学年での学習の中で外部講師からSDGsについて教えてもらったあと、学級で学習に取り組んだ。

- ①校外学習で雲南市のスーパー(マルシェリーズ)と出雲市にある大型商業施設(ゆめタウン出雲)に行き、どんな取り組みをしているかお店の人に聞く。
- ②修学旅行で広島のアウトレットへ行き、どんな取り組みをしているかお店の人に聞く。
- ③事後学習で雲南市、出雲市、広島県のSDGsの取り組みをまとめ、比較する。
- ④集会でまとめたものを発表し、「今、自分たちができること」をみんなに呼びかける。

それぞれを比べる

	マルシェリーズ	ゆめタウン出雲	ジ・アウトレット広島
目標1 貧困をなくそう	募金支援	募金支援	募金支援
目標2 偏食を減らし、健康的な食生活を営む	廃棄(ゴミ)を減らす	食品ロス削減を促す もくもくキッチン	募金支援
目標6 安全な水とトイレを世界中に	特になし	特になし	ウォーターセーフティキャンペーン(節水)
目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	太陽光発電 エナジ(節電)	太陽光発電 エナジ(節電)	ソーラーパネルを使った太陽光発電 PPA(節電)
その他の取り組み		ゆめタリタリー	アウトレットは一度限りなくとも たもつておく責任(目標2)つくる責任つかう責任

子どもたちの反応・感想

- ・同じ商業施設でも取り組んでいる事は様々だった。
- ・それぞれがその地にあった取り組みをしていることが分かった。
- ・ゆめタウン出雲はSDGsについて、たくさんの取り組みをしている事が分かった。
- ・「THE OUTLETS HIROSHIMA」に行き、「アウトレット」という業態事態が、SDGs12の目標「つくる責任 つかう責任」に当てはまっているという説明を聞き、「おお～ほんとだ、確かに…」と大きくなついている様子が見られた。
- ・自分たちに何ができるか考え、節電や節水、募金など、身近にできることを探した。



地域のことを考える

学校名: 出雲養護学校雲南分教室 名前: 星野孝治、森田 馨

対象	高等部3年	単元名
科目	総合的な探究の時間	地域のことを考える(SDGs 11 住み続けられるまちづくりを)
時間	6~7	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 ファストフード店の出店に好立地な条件を考えることを通して、三刀屋市街や雲南圏域の現状について知る。 その2 ファストフード店の出店に必要な条件を考え、最適な場所を選定するための条件や判断基準を、自分で考えたり、友だちと協議したりする。 その3 自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、よりよい意見になるように協力して取り組む。

期待できる学習効果

その1 雲南市のどこに人は集まるか、集まりやすいかを考えることを通して、三刀屋市街や雲南圏域について知る。
その2 来店してほしい人や集まりやすい場所について、必要な条件を考え、最適な場所を選定するための条件や判断基準を、自分で考えたり、友だちと協議したりする。
その3 自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、よりよい意見になるように協力して取り組む。

授業内容

- 三刀屋市街の商店について調べたときに感じたことや、雲南市長訪問のときに「私たちの要望」として伝えた「商業施設(ファストフード店など)をつくってほしい」と要望をしたことを踏まえて、具体的に三刀屋市街地のどこに出店したら繁盛するかを考える。
- ①ファストフード店について知る～ファストフード店のメニューを知り、お店に来てほしい人について考えたり協議したりする。
 - ②雲南のどこに人が集まるか～雲南市にある他の飲食店の事例から、人が集まる場所や集まりやすい場所について考えたり協議したりする。また、他に出店の条件があるかについて考えたり協議したりする。
 - ③雲南のどこに出店するか～三刀屋の市街で、どこに出店したらよいかを考えたり、協議したりする。また、三刀屋市街以外の雲南圏域で、出店できそうな場所があるかどうかについて考えたり、協議したりする。
 - ④発表～ファストフードの出店に最適であると導き出した場所とその理由について発表する。

子どもたちの反応・感想

- ・生徒たちが、三刀屋の市街地についてある程度の知識を備えていたことから、立地による差や収益を上げるための条件について考えやすかった。
- ・「回転率や客単価と収益との関係」といった、授業の予定以外のことについて疑問に思ったり、出店できそうな場所についての条件を教員が設定しなくても空き店舗や空き地や収益の低そうな店などを自分たちで考えている姿が見られた。
- ・出店に失敗した店の例から、雲南市に住んでいる人の食に対する傾向について自分たちで意見を出し合い、立地だけでない条件について自ら深めることができた。また、いくつか挙げた候補地について、個人の考えにとどめるのではなく生徒同士で共有してメリットとデメリットを考えていくなど、意見を出し合いながら自主的に進めていく姿が見られた。